



Solaris 9 9/02 ご使用にあたって (SPARC 版)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 816-6194-11
2002 年 10 月

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2, Java, JDK, Solaris JumpStart, Solaris Web Start, SunOS, OpenWindows, XView, JavaSpaces, SunSolve, iPlanet Directory Server, Sun4U, Sun StorEdge, Solstice AdminSuite, SunInstall, Sun ONE Directory Server, および Sun Enterprise は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Netscape は、米国およびその他の諸国の Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。Netscape Communicator は、Netscape Communications Corporation 社の商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政省が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。©1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 9 (SPARC Platform Edition) 9/02 Release Notes

Part No: 816-5030-11

Revision A



021015@4660



目次

はじめに	11
1 Solaris 9 9/02 の製品構成	15
Solaris 9 9/02 の構成	15
Solaris 9 9/02 INSTALLATION (Multilingual) CD (SPARC 版)	15
Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC 版)	15
Solaris 9 9/02 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC 版)	16
Solaris 9 9/02 LANGUAGES CD (SPARC 版)	16
Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 1 of 2 CD	17
Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD	17
Solaris 9 9/02 DVD (SPARC 版)	18
Solaris 9 メディア一覧 (Contents of Solaris 9 Media)	18
Solaris 9 インストールの手引き (Solaris 9 Start Here)	19
Solaris 9 9/02 インストールにあたって (SPARC 版) (Solaris 9 (SPARC Platform Edition) 9/02 Installation Release Notes)	19
Binary Code License (ソフトウェア使用許諾契約書)	20
Binary Code License (Terms & Conditions)	20
2 インストールに関する注意事項とバグ情報	21
日本語環境をインストールする前に知っておく必要がある情報	21
必要なディスク容量	21
日本語環境の選択	25
スワップインストールについて	27
デフォルトでは利用可能な最初のディスクシリンダからスワップスライスが割り当てられる	27
Solaris カスタム JumpStart のバグ情報	28

デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルは小容量ディスクに複数のロケールをインストールしない可能性がある	28
DVD から Solaris 9 9/02 をインストールする前に知っておく必要がある注意事項とバグ情報	29
Solaris 9 9/02 DVD からのブート	29
DVD または CD から Solaris 9 9/02 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要があるバグ	29
Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD の Solaris Web Start プログラムを使用してインストールし、はじめてリブートするとシステムがハングアップする (バグ ID: 4717581)	29
Netscape 6.2.3 のローカライズパッケージは DVD または CD から自動的にインストールされない (バグ ID: 4709348)	30
Toshiba SD-M1401 DVD-ROM を持つシステムで Solaris DVD からのブートが失敗する (バグ ID: 4467424)	31
Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 9 9/02 DVD 上のデータにアクセスできない (バグ ID: 4511090)	32
Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報	33
Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の Solaris 9 9/02 ドキュメントをインストールする方法	33
Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD からのインストールに関する注意事項とバグ情報	34
インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)	34
ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127)	35
[日本語環境のみ] CD からのインストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項	35
アップグレードに関する注意事項とバグ情報	36
CD を使用して Solaris 8 2/02 から Solaris 9 9/02 にアップグレードする場合に、インストール時のダイアログのメッセージが正しく表示されない (バグ ID: 4704720)	36
Solaris 9 9/02 オペレーティング環境に、SUNwsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない	36
Solaris suninstall プログラムによるアップグレードでのロケール選択	37
旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアと互換性がない	37
フラッシュアーカイブをインストールするときに Live Upgrade がブート環境の /etc/group ファイルをアップデートしない (バグ ID: 4683186)	40
パッチリストファイルを指定したときに、luupgrade コマンドがパッチを追加できない (バグ ID: 4679511)	40
アップグレードの際に、SUNWjxcft パッケージの削除でエラーが記録される (バグ ID: 4525236)	41

Solaris 8 オペレーティング環境からアップグレードすると、冗長な Kerberos プライバシ機構が作成される (バグ ID: 4672740)	41
Solaris 9 および Solaris 9 9/02 の韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語などアジア言語の一部のパッケージの preremove スクリプトが、アップグレード中に正しく実行されない (バグ ID: 4707449)	43
Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (バグ ID: 4626093)	44
/export が満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (バグ ID: 4409601)	44
ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)	45
Web-Based Enterprise Management (WBEM) データ消失防止のための JavaSpaces データストアのアップグレード (バグ ID: 4365035)	45
アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)	45
日本語フォントディレクトリに、古いフォント設定ファイルが残ってしまう (バグ ID: 4525236)	46
インストール全般に関する注意事項とバグ情報	46
スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)	47
[日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される	47
[日本語環境のみ] 日本語キーボード入力	47
64 ビット Solaris に関する注意事項とバグ情報	48
一部の Sun UltraSPARC システム (Sun4U) では、ブート Flash PROM をアップデートする必要がある	49
DOCUMENTATION CD に関する注意事項	50
Solaris 2.6、7、および 8 オペレーティング環境が稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前の文書パッケージをインストールできない	50
DOCUMENTATION CD のインストールに関するバグ情報	51
Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)	51
カスタムインストールの言語選択画面が正しく表示されないことがある (バグ ID: 4618350)	51
特定のロケールでは Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD が Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD 用のプロンプトを表示しない (バグ ID: 4668033)	51
コマンド行インタフェースモードでは DOCUMENTATION CD の確認画面が表示されない (バグ ID: 4520352)	52
インストール時のローカライズに関する注意事項	53
選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある	53
インストール時のローカライズに関するバグ情報	53

Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォントパッケージが Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードされない (バグ ID: 4653908) 53

タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング環境が動作しているシステムをアップグレードすると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059) 54

いくつかのヨーロッパロケールだけをインストールすると UTF-8 ロケールで表示されない文字がある (バグ ID: 4634077) 54

3 実行時の注意事項とバグ情報 57

スマートカードのバグ情報 57

スマートカードに対してシステムが反応しない (バグ ID: 4415094) 57

スマートカード Management Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (バグ ID: 4447632) 58

共通デスクトップ環境 (CDE) 58

共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項 58

FontList オプションが指定されている場合、コマンド行から起動した dtmail がクラッシュする (バグ ID: 4677329) 58

行数の多い電子メールの表示中に CDE がハングアップしたようになる (バグ ID: 4418793) 59

PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435) 59

国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスとのデータ交換を PDA Sync がサポートしていない (バグ ID: 4263814) 60

dtmail で不在返信メッセージを作成すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110) 60

[日本語環境のみ] ja_JP.PCK ロケールおよび ja_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項 61

[日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565) 61

システム管理に関するバグ情報 61

Solaris 7 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4394587) 61

Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092) 62

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885) 62

Solaris 9 9/02 オペレーティング環境で、UltraSPARC II CP イベントメッセージは、作成されるときと作成されないときがある (バグ ID: 4732403) 62

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースプロバイダを検出できない (バグ ID: 4619576) 63

XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (バグ

ID:4497393、4497399、4497406、4497411)	63
Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールで ファイルシステムのマウント属性を変更できない (バグ ID: 4466829)	64
WBEM でデータを追加しようとするとき CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY エラーが 発生する (バグ ID: 4312409)	64
[日本語環境のみ] Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の Sun ONE Console で GUI 上のレイアウトの問題がある (バグ ID: 4644430)	65
admintool を使用してユーザーを作成する場合の注意事項	65
Solaris ボリュームマネージャの問題	66
Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある	66
Solaris ボリュームマネージャに関するバグ情報	67
metadetach コマンドでサブミラーを切断すると、ミラーの大きさが自動的に変 更される (バグ ID: 4678627)	67
ディスクが削除されて交換された場合、Solaris ボリュームマネージャの metareplace -e コマンドがソフトパーティションを有効にできない (バグ ID: 4645781)	67
障害の発生したホットスペアディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボ リュームマネージャの metahs -e コマンドが銅ケーブルストレージボックスで 失敗する (バグ ID: 4644106)	68
論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの metadevadm コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)	69
Solaris ボリュームマネージャの metarecover コマンドが metadb 名前空間の更 新に失敗する (バグ ID: 4645776)	69
ネットワーキングに関するバグ情報	70
ホールドオフ期間中、アイドル状態の Solaris PPP 4.0 デーモンが終了する (バグ ID: 4647938)	70
フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパ ケットが失われることがある (バグ ID: 4152864)	71
セキュリティに関するバグ情報	71
CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474)	71
CDE の Removable Media 自動実行機能は Solaris 9 9/02 オペレーティング環境か ら削除されている (バグ ID: 4483353)	72
cron、at、および batch はロックされたアカウントにジョブをスケジュールで きない (バグ ID: 4622431)	72
ソフトウェアに関するその他のバグ情報	73
Solaris 9 9/02 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュ ームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114)	73
DOCUMENTATION CD に関する注意事項	73
iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない	73
他の文書パッケージを削除するには SUNwdocs パッケージが必要	74

DOCUMENTATION CD に関するバグ情報	74
ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475)	74
Solaris 9 9/02 Documentation パッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 9/02 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961)	75
ローカライズに関する注意事項とバグ情報	76
ja_JP.eucJP ロケールに関する注意事項	76
en_US.UTF-8 ロケールでは AltGraph-E を使用してもヨーロッパ言語の文字が生成されない (バグ ID: 4633549)	76
アラビア語のロケールでは Shift-U が予期しない動作をする (バグ ID: 4303879)	76
Secure シェルアプリケーションが完全に各国語対応されていない (バグ ID: 4680353)	77
Netscape Communicator 4.78 (日本語版) に関するバグ情報	77
[日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123)	77
[日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー&ペーストできない (バグ ID: 4197428)	77
Netscape Communicator 4.78 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571)	78
Netscape 6.2.3 に関する注意事項	78
英語以外のロケールに関する実行時のバグ情報	78
ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314)	78
Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の問題	79
設定の問題	79
スキーマの問題	79
レプリケーションの問題	79
サーバープラグインの問題	80
サービスのロールとクラスの問題	80
インデックスの問題	80
Sun ONE Directory Server に関するバグ情報	80
Console を使用してユーザーを無効にできない (バグ ID: 4521017)	80
ルート接尾辞に空白文字が含まれるディレクトリは構成できない (バグ ID: 4526501)	81
サーバー間でパスワードポリシー情報の同期をとれない (バグ ID: 4527608)	81
ユーザーパスワードを変更した後もアカウントロックアウトが残る (バグ ID: 4527623)	81
インストール直後の Console のバックアップが失敗する (バグ ID: 4531022)	82

DN 属性を正規化するとき、サーバーが大文字と小文字を区別する構文を無視する (バグ ID: 4630941)	82
エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、そのサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4678334)	82
レプリケーションが自己署名証明書を使用できない (バグ ID: 4679442)	83
その他	83
バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない	83

4 サポート中止に関する情報	85
Solaris 9 でサポートを中止した製品	85
adb マップ修飾子とウォッチポイント構文	85
AnswerBook2 文書サーバー	86
aspppd ユーティリティ	86
ATOK8 日本語入力方式	86
crash ユーティリティ	86
Solaris ipcs コマンドのシステムクラッシュ時のダンプ用オプション	86
cs00 日本語入力方式	87
アーリーアクセス (EA) ディレクトリ	87
ESDI ドライブ用 Emulex MD21 ディスクコントローラ	87
enable_mixed_bcp チューニング可能パラメタ	87
japanese ロケール	87
libjapanese.a	88
Java Software Developer's Kit (SDK) 1.2.2	88
JDK 1.1.8 および JRE 1.1.8	88
OpenWindows 開発ツールキット	88
OpenWindows ユーザー環境	88
プライオリティページングおよび関連カーネル調整可能パラメタ (priority_paging/cachefree)	89
s5fs ファイルシステム	89
sendmail ユーティリティ機能	89
SUNWebnfs	90
sun4d ベースのサーバー	90
SUNWrdm パッケージ	90
sdtudc_extract_ps	90
将来のリリースでサポートを中止する予定の製品	91
Solaris 32 ビット Sun4U カーネル	91
netstat の -k オプション	92
SPARCengine Ultra AX	92

スタンドアロンのルーター検出	92
AdminTool	92
アジアの短縮 dtlogin 名	92
power.conf の Device Management エントリ	93
フェデレーテッドネーミングサービス XFN のライブラリとコマンド	93
GMT zoneinfo タイムゾーン	93
JRE 1.2.2	93
Kerberos バージョン 4 クライアント	93
Korean CID フォント	94
LDAP クライアントライブラリ	94
NIS+	94
pam_unix モジュール	94
Perl バージョン 5.005_03	94
電源管理入出力制御コマンド	95
Solstice Enterprise Agents	95
SPC ドライバ	95
sun4m ハードウェア	95
XIL	96
xutops プリントフィルタ	96
5 マニュアルに関する情報	97
マニュアルの訂正・補足と注意事項	97
『Solaris 9 パッケージリスト』	97
sysidcfg マニュアルページおよび『Solaris 9 インストールガイド』	97
『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』	97
『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』の「クライアントプログラムの記述」	98
[日本語環境のみ] man3X11、man3Xt の日本語翻訳マニュアルページが古い	98
Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD に関する注意事項	98
ナビゲーションファイルに関する注意事項	98
[日本語環境のみ] Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD の booklist.html に記載されているマニュアル名に誤りがある (バグ ID: 4733202)	99
A Solaris 9 9/02 オペレーティング環境のパッチの一覧	101
パッチの一覧	101

はじめに

本書『Solaris™ 9 9/02 ご使用にあたって (SPARC 版)』は、Solaris 9 9/02 をご使用になるにあたって最初に読んでいただくマニュアルです。Solaris 9 9/02 オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報や、既知の問題点について説明します。

『Solaris 9 9/02 ご使用にあたって (SPARC 版)』は、以下の 2 つの版が存在します。

- Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD の「Solaris 9 9/02 Release and Installation Collection - Japanese」に含まれているもの
- <http://docs.sun.com> に掲載されている「Solaris 9 9/02 Release and Installation Collection - Japanese」に含まれているもの (『Solaris 9 9/02 インストールにあたって (SPARC 版)』 + 最新情報が記載されている) - 本書

注 - 本書には、SPARC™ プラットフォームに該当する情報が記載されています。また、本書で説明する情報は、章、節、注、箇条書き、図、表、例、またはコード例において特に明記しない限り、64 ビットと 32 ビットの両方のアドレス空間に該当します。

対象読者

本書は、Solaris に関する知識を持つ方、現在習得中の方を対象に、Solaris 9 9/02 ソフトウェアをインストールして使用するために必要な情報を提供します。

内容の紹介

本書は、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境ソフトウェアに関する以下の情報を提供します。

第 1 章では、Solaris 9 9/02 製品に含まれている CD、DVD、マニュアル、カードなどについて説明しています。

第 2 章では、インストールに関する注意事項とバグについて説明しています。この章の内容を理解してからインストールを開始してください。

第 3 章では、Solaris 9 9/02 実行時の注意事項とバグについて説明しています。

第 4 章では、サポートを終了するソフトウェア機能またはハードウェアについて説明しています。

第 5 章では、Solaris 9 9/02 のマニュアル中の記述に関する、補足事項や訂正事項を説明しています。

付録 A では、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境に適用されているパッチを一覧表示しています。

Solaris のほかに付属のソフトウェアをインストールする場合は、付属ソフトウェアに含まれている最新リリース情報を参照して、そのソフトウェアに関する注意事項とバグ情報を確認してください。

関連マニュアル

Solaris 9 9/02 をインストールする際は、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- 『Solaris 9 インストールの手引き』
- 『Solaris 9 インストールガイド』
- 『Solaris 9 9/02 ご使用にあたって』。次のメディアでご利用いただけます。
 - Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD の Solaris 9 9/02 Release and Installation Collection - Japanese
 - <http://docs.sun.com> (本書) (最新版)
 - 「Solaris 9 9/02 System Administrator Collection - Japanese」
 - 『Solaris 9 9/02 オペレーティング環境の概要』

Solaris のマニュアルは、このリリースに含まれている Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD で提供されています。

最新の CERT 勧告については、CERT の公式 Web サイト <http://www.cert.org> を参照してください。

ハードウェア構成によっては、インストール時に別途作業が必要になることがあります。その場合は、各ハードウェアのメーカーから提供される『Solaris 9 Sun ハードウェアマニュアル』などのインストール手順の補足資料を参照してください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をすることがあります。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

Solaris 9 9/02 の製品構成

Solaris 9 9/02 は、複数言語をサポートするマルチリンガル製品です。この章では、Solaris 9 9/02 に含まれている CD、DVD、および印刷マニュアルについて説明します。

Solaris 9 9/02 の構成

Solaris 9 9/02 の構成について、概要を説明します。

Solaris 9 9/02 INSTALLATION (Multilingual) CD (SPARC 版)



この CD には、Solaris Web Start 3.0 インストールプログラムが含まれています。Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris ソフトウェアおよび同梱の CD に含まれているその他のソフトウェアをインストールする場合に使用します。

Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC 版)



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 9 9/02 オペレーティング環境 (「コアシステムサポート」と一部の「エンドユーザーシステムサポート」ソフトウェアグループ用のソフトウェア)
- 従来の suninstall インストールプログラム

注 - Motif 版の suninstall は削除されました。CUI 版はアジア言語でもローカライズされました。

Solaris 9 9/02 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC 版)



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 9 9/02 オペレーティング環境 (「エンドユーザーシステムサポート」の残り
と、それ以上のソフトウェアグループ用のソフトウェア)
- ExtraValue ソフトウェア
ExtraValue ソフトウェアには、サポート対象である CoBundled ソフトウェア
(Netscape 6.2.3、SunScreen 3.2、Web Start Wizards SDK 3.0.1) と評価用のアー
リーアクセス・ソフトウェア (Bonus_Languages) が含まれています。
Bonus_Languages には、Solaris 8 用のカタロニア語、ポーランド語、ロシア語の
CDE の翻訳メッセージが含まれています。

Solaris 9 9/02 LANGUAGES CD (SPARC 版)



この CD には、Solaris オペレーティング環境で英語以外の言語を使用する際に必要なソフトウェアが含まれています。

注 - Solaris 9 9/02 でサポートされているすべてのロケールの基本機能 (言語の入力、出力、印刷、データ処理) をサポートするソフトウェア (部分ロケールと呼ぶ) は、SOFTWARE CD に含まれています。LANGUAGES CD には、各言語用のユーザーインターフェースの翻訳および追加ソフトウェアが含まれています。

Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 1 of 2 CD



この CD には、英語およびヨーロッパ言語のオンライン文書コレクション (PDF および HTML ファイル) が含まれています。

以下は英語コレクションの一覧です。

```
Solaris 9 9/02 Release and Installation Collection
Solaris 9 9/02 About What's New Collection
Solaris 9 User Collection
Solaris 9 9/02 System Administrator Collection 1
Solaris 9 Software Developer Collection 1
Solaris 9 Reference Manual Collection
Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection
KCMS Collection
Solaris 9 Asian Locales Collection
iPlanet Directory Server 5.1 Collection 1
```

注 1: DOCUMENTATION 2 of 2 CD にも含まれます。

Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD



この CD には、日本語およびその他のアジア言語のオンライン文書コレクション (PDF および HTML ファイル) が含まれています。また、英語のオンライン文書コレクションも一部含まれています。

以下は日本語コレクションの一覧です。

Solaris 9 9/02 Release and Installation Collection - Japanese
Solaris 9 9/02 About What's New Collection - Japanese
Solaris 9 User Collection - Japanese
Solaris 9 9/02 System Administrator Collection - Japanese
Solaris 9 Software Developer Collection - Japanese ²
Solaris 9 Reference Manual Collection - Japanese ²
Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese
iPlanet Directory Server 5.1 Collection - Japanese

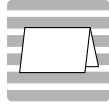
注 2: 一部のみの翻訳となりますので、全情報を参照する場合は、DOCUMENTATION 1 of 2 CD または DOCUMENTATION 2 of 2 CD の対応する英語コレクションをご覧ください。

Solaris 9 9/02 DVD (SPARC 版)



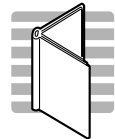
この DVD には、前述のすべての CD の内容が含まれています。(製品によってはこのメディアが含まれていないものがあります)。

Solaris 9 メディア一覧 (Contents of Solaris 9 Media)



Solaris 9 の内容について各国語で記述されているカードです。メディアフォルダーのポケットに入っています。

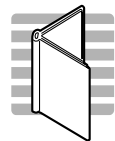
Solaris 9 インストールの手引き (Solaris 9 Start Here)



インストールを始めるにあたって参照するマニュアルです。従来の対話式インストール (suninstall) を行うか、または Solaris Web Start インストールを行うかを選択し、それぞれを使用してインストールを行う手順が説明してあります。

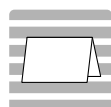
インストールに際しては、本書の第 2 章も必ずお読みください。

Solaris 9 9/02 インストールにあたって (SPARC 版) (Solaris 9 (SPARC Platform Edition) 9/02 Installation Release Notes)



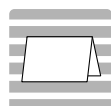
インストールに関する特に重要なバグ情報や注意事項が記載されています。

Binary Code License (ソフトウェア使用許諾契約書)



ソフトウェア使用の許諾について記述されています。

Binary Code License (Terms & Conditions)



上記の「ソフトウェア使用許諾契約書」に対する補足条項が含まれています。

第 2 章

インストールに関する注意事項とバグ情報

この章では、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境のインストールに関連した問題を説明します。

この章には、Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD に含まれている Installation Kiosk、および Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD に含まれている『Solaris 9 9/02 ご使用にあたって (SPARC 版)』の発行後に見つかった、以下のインストール時のバグに関する説明が追記されています。

- 29 ページの「Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD の Solaris Web Start プログラムを使用してインストールし、はじめてリブートするとシステムがハングアップする (バグ ID: 4717581)」

注 - Solaris 9 9/02 オペレーティング環境には、128M バイト以上のメモリーが必要です。

日本語環境をインストールする前に 知っておく必要がある情報

必要なディスク容量

Solaris 9 9/02 の日本語環境と DOCUMENTATION CD をインストールする場合に必要なディスク容量について説明します。

Solaris 9 9/02 CD のソフトウェア容量

次の表に、Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD、Solaris 9 9/02 SOFTWARE 2 of 2 CD、Solaris 9 9/02 LANGUAGES CD に含まれている日本語ロケール (ja、ja_JP.PCK、ja_JP.UTF-8) のパッケージをインストールするために必要なディスク容量を示します。Solaris 9 より、ファイルシステムの自動配置でデフォルトとして選択される領域は、ルート (/) とスワップ (swap) だけになりました。記載されている値は、このデフォルトのファイルシステムでインストールする場合に必要なルートファイルシステムの推奨値 (括弧内は最小値) で、スワップ領域に必要な容量は含まれていません。

なお、Solaris suninstall プログラムで「ソフトウェアの選択」画面に実際に表示される各ソフトウェアグループの値は、スワップ領域を含んだ値です。この値は、インストールするシステムのディスクやメモリのサイズによって異なります。

表 2-1 Solaris 9 9/02 (SPARC 版) のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ソフトウェアグループ	ルート (/) ファイルシステムのサイズ
全体ディストリビューション と OEM サポート	1793 (1525)
全体ディストリビューション	1757 (1494)
開発者システムサポート	1553 (1320)
エンドユーザーシステムサポート	1045 (889)

注 - この表に記載されている値は、Sun4U アーキテクチャのシステムにソフトウェアをデフォルトでインストールする場合に必要な容量で、64 ビット (sparc v9) サポートパッケージの容量を含んでいます。64 ビットパッケージをインストールしない場合や、Sun4U 以外のアーキテクチャにインストールする場合には、この表の値よりも推奨値で 100M ~ 180M バイト、最小値で 90M ~ 150M バイトほど少ない容量で済みます。

Solaris DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量

次の表に、アジア言語版の DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれている、英語および日本語のドキュメントパッケージとその容量を示します (その他のアジア言語のパッケージは省略)。これらのパッケージのうち * 印がついているパッケージは、デフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-2 Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
SUNWadm *	Solaris 9 9/02 System Administratorl Collection (HTML 版)	27
SUNWdev *	Solaris 9 Software Developer Collection (HTML 版)	20
SUNWids *	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (HTML 版)	8
SUNWdocs *	Documentation Navigation for Solaris 9	1
SUNWjaadm *	Solaris 9 9/02 System Administrator Collection - Japanese (HTML 版)	27
SUNWjabe *	Solaris User Collection - Japanese (HTML 版)	15
SUNWjaman *	Solaris 9 Reference Manual Collection - Japanese (HTML 版)	14
SUNWjdad *	Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese (HTML 版)	9
SUNWjdev *	Solaris 9 Software Developer Collection - Japanese (HTML 版)	13
SUNWjids*	iPlanet Directory Server 5.1 Collection - Japanese (HTML 版)	8
SUNWjinab *	Solaris 9 9/02 Release and Installation Collection - Japanese (HTML 版)	3
SUNWwnabj *	Solaris 9 9/02 About What's New Collection - Japanese (HTML 版)	1
SUNWpaadm	Solaris 9 9/02 System Administrator Collection - Japanese (PDF 版)	18
SUNWpdev	Solaris 9 Software Developer Collection - Japanese (PDF 版)	17
SUNWpids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (PDF 版)	8
SUNWpjaadm	Solaris 9 9/02 System Administrator Collection - Japanese (PDF 版)	23
SUNWpjabe	Solaris User Collection - Japanese (PDF 版)	14
SUNWpjaman	Solaris 9 Reference Manual Collection - Japanese (PDF 版)	16
SUNWpjdad	Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese (PDF 版)	9
SUNWpjdev	Solaris 9 Software Developer Collection - Japanese (PDF 版)	17

表 2-2 Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト) (続き)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
SUNWpjids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection - Japanese (PDF 版)	12
SUNWpjinaab	Solaris 9 9/02 Release and Installation Collection - Japanese (PDF 版)	3
SUNWpwnabj	Solaris 9 9/02 About What's New Collection - Japanese (PDF 版)	2

注 - *印のついていない PDF 版のパッケージはデフォルトではインストールされません。これらのパッケージをインストールする場合には次の手順を実行してください。

1. DOCUMENTATION 2 of 2 CD のインストーラを起動する。
2. 「インストール形式の選択」画面で、「カスタム」を選択する。
3. 「コンポーネントの選択」画面で、パッケージを選択し、インストールを実行する。

次の表に、英語 + ヨーロッパ言語版の DOCUMENTATION 1 of 2 CD に含まれており、DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれていない、英語のドキュメントパッケージの一部とその容量を示します。

これらのパッケージには、日本語に翻訳されていないマニュアルが含まれています。それらのマニュアルをインストールする場合には、次の手順を実行してください。

1. DOCUMENTATION 1 of 2 CD のインストーラを起動する。
2. 「インストール形式の選択」画面で、「カスタム」を選択する。
3. 「コンポーネントの選択」画面で、該当するパッケージを選択し、インストールを実行する。

パッケージはデフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-3 Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 1 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
[英語]		
SUNWaman	Solaris 9 Reference Manual Collection (HTML 版)	54
SUNWpaman	Solaris 9 Reference Manual Collection (PDF 版)	29
SUNWakcs	KCMS Collection (HTML 版)	3
SUNWpakcs	KCMS Collection (PDF 版)	4

日本語環境の選択

Solaris 9 9/02 のインストール中に行うことができる、日本語環境の選択について説明します。日本語環境の選択では、「デフォルトロケール」と「インストールするロケール」の2つを選択します。インストール手順の詳細は、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

Solaris 9 9/02 は、次に示すように3種類の文字エンコーディングに対応した4つの日本語ロケールをサポートしています。

- EUC をサポートする ja および ja_JP.eucJP ロケール
- PCK (PC 漢字コード) をサポートする ja_JP.PCK ロケール (シフト JIS と同等)
- Unicode の UTF-8 をサポートする ja_JP.UTF-8 ロケール

デフォルトロケールの選択

インストール後のシステムのデフォルトロケールを選択します (具体的には、`/etc/default/init` ファイル内に LANG 環境変数が定義されます)。

日本語環境をインストールする場合に、システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールを選択しなければならないわけではありませんが、日本語ロケールを選択することをお勧めします。システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていると、たとえば、システムログイン時の LANG の設定を、ユーザーごとに環境設定ファイルで定義しなくても済むようになります。また、`dtlogin` の言語設定で、デフォルトで日本語ロケールが設定されます。

- Solaris Web Start 3.0 (CD) インストールの場合

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。システムのデフォルトロケールは、「ja」に設定されます。

- Solaris suninstall プログラムまたは Solaris Web Start 3.0 (DVD) インストールの場合

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。次に、日本語ロケールとして「Japanese EUC (ja)」、「Japanese PC Kanji (ja_JP.PCK)」、「Japanese UTF-8 (ja_JP.UTF-8)」のいずれかを選択してください。ここで選択したロケールが、システムのデフォルトロケールとして設定されます。

Solaris Web Start 3.0 インストールでは、次の手順を実行することでデフォルトロケールを選択し直すことができます。

(例) ja_JP.PCK ロケールをデフォルトロケールにする場合

1. 「インストールの形式の選択」画面で、「カスタムインストール」を選択する。
2. 「ソフトウェアのロケール選択」画面で、ja_JP.PCK ロケールのチェックボックスを ON にする (ここでチェックされていないロケールは、次の選択画面で表示されません。)

3. 「システムのロケール選択」画面で、ja_JP.PCK ロケールを選択する。

注 – いずれのインストール方法を選択した場合でも、ja_JP.eucJP ロケールをデフォルトロケールとして選択することはできません。

- システムのデフォルトロケールを、インストール後に設定または変更する場合には、/etc/default/init ファイルでの LANG 環境変数の設定を次のようにしてから、システムを再起動します。

ja ロケールに設定	LANG=ja
ja_JP.eucJP ロケールに設定	LANG=ja_JP.eucJP
ja_JP.PCK ロケールに設定	LANG=ja_JP.PCK
ja_JP.UTF-8 ロケールに設定	LANG=ja_JP.UTF-8
c ロケールに設定	LANG= の行を削除、または LANG=C

インストール前に、このデフォルトロケールをあらかじめ設定しておくことも可能です。この事前設定をしておくこと、GUI インストール時にもロケール設定画面が表示されません。この設定は、カスタム JumpStart による自動インストールの場合など、意図的にロケール設定画面を表示させたくない場合に有効です。¹

インストールするロケールの選択

インストールしたいロケールを選択すると、ロケールに依存するソフトウェアパッケージがインストールされます。日本語環境をインストールするには、必ず日本語パッケージをインストールする必要があります。

注 – Solaris 9 9/02 では、インストールするロケールとして、日本語ロケールを 1 つだけ選択した場合でも、すべての日本語ロケールがインストールされます。たとえば、ja ロケールのみを選択した場合でも、ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK、および ja_JP.UTF-8 ロケールがインストールされます。

- DOCUMENTATION 2 of 2 CD を Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD からインストールする場合
後述のバグ情報にあるバグ ID: 4668033 のため、Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD を使用して、DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールする場合には、インストールするロケールの項で、対象言語の EUC ロケールが選択されている必要があります。Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD の「カスタムインストール」を選択した後「ソフトウェアのロケール選択」画面で EUC のロケール (日本語環境の

¹ デフォルトロケールの事前設定を行う方法には、「ネームサービスに事前に定義しておく方法」と「sysidcfg ファイルを使用する方法」の 2 通りがあります。詳しくは、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

場合は、ja ロケール) を選択し、DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールするように設定してください。

■ Solaris suninstall プログラムの場合

「地域の選択」画面で、インストールするロケールを選択します。この画面では、あらかじめ選択したシステムのデフォルトロケールが自動的に選択された状態になっています。たとえば、システムのデフォルトロケールとして ja ロケールを選択した場合、この画面では ja ロケールのみが選択されますが、実際にはすべての日本語ロケールがインストールされます。

■ Solaris Web Start 3.0 インストールの場合

「インストール形式の選択」画面にて、「デフォルトインストール」を選択した場合、システムのデフォルトロケールのみが自動的に選択され、ロケールを選択するための画面は表示されません。たとえば、システムのデフォルトロケールとして ja ロケールを選択した場合、ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 ロケールのみがインストールされます。他の言語のロケールをインストールする場合は「カスタムインストール」を選択して、「ソフトウェアのロケール選択」画面で、追加したいロケールを選択してください。

■ カスタム JumpStart インストールの場合

カスタム JumpStart インストールが参照するプロファイルに locale キーワードを追加します。²

日本語ロケール環境をインストールする場合には、locale キーワードの値に ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK または ja_JP.UTF-8 のいずれかを指定します。

なお、プロファイル中で locale キーワードを明示的に定義しない場合でも、デフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていれば、すべての日本語ロケール環境が自動的にインストールされます。

スワップインストールについて

デフォルトでは利用可能な最初のディスクシリンダからスワップスライスが割り当てられる

デフォルトでは、Solaris 9/02 のインストールプログラムは、利用可能な最初のディスクシリンダ (通常はシリンダ 0) から始まる位置にスワップを配置します。この配置では、デフォルトのディスクレイアウトの際にルート (/) ファイルシステムに最大の空間が提供され、アップグレード時にルート (/) ファイルシステムを拡大することが可能になります。

² locale キーワードは、日本語パッケージのインストールに影響しますが、システムのデフォルトロケールを決定するものではありません。

将来的に、スワップ空間を拡大する必要がある場合は、スワップスライスを別のディスクシリンダから始まるように配置できます。それには、次のいずれかの方法を使用します。

- Solaris™ Web Start および SunInstall™ のインストールプログラムの場合は、シリンダモードでディスクレイアウトをカスタマイズすることができ、希望する位置にスワップスライスを手作業で割り当てることができます。
- Solaris カスタム JumpStart™ のインストールプログラムの場合は、プロファイルファイルの中でスワップスライスを割り当てることができます。

注 – ミラー化されたルート (/) ファイルシステムを作成する場合は、66 ページの「Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある」を参照してください。

Solaris カスタム JumpStart プロファイルファイルの詳細については、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

Solaris カスタム JumpStart のバグ情報

デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルは小容量ディスクに複数のロケールをインストールしない可能性がある

Solaris 9 9/02 メディアのデフォルトの Solaris JumpStart™ プロファイルを使用して、ディスク容量の小さいシステムに複数のロケールをインストールすると、インストールが失敗することがあります。この問題は、次の状況で発生する可能性があります。

- デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルを使用して、2.1 G バイトディスクのシステムに C ロケール以外のロケールをインストールする
- デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルを使用して、4 G バイトディスクのシステムに 2 つ以上のロケールをインストールする

DVD から Solaris 9 9/02 をインストールする前に知っておく必要がある注意事項とバグ情報

Solaris 9 9/02 DVD からのブート

Solaris 9 9/02 オペレーティング環境が DVD で提供されるようになりました。DVD からインストールまたはアップグレードを行うには、Solaris 9 9/02 DVD を DVD-ROM ドライブに挿入して、ok プロンプトで次のコマンドを入力し、システムをブートします。

```
ok boot cdrom
```

DVD または CD から Solaris 9 9/02 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要があるバグ

Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD の Solaris Web Start プログラムを使用してインストールし、はじめてリブートするとシステムがハングアップする (バグ ID: 4717581)

Solaris 9 9/02 オペレーティング環境をインストールするのに Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD の Solaris™ Web Start プログラムを使用すると、インストール後にはじめてリブートしたときにシステムがハングアップする可能性があります。

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- Solaris 9 9/02 オペレーティング環境をインストールするのに Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用する。
- Solaris 9 9/02 オペレーティング環境をインストールするのに Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD を使用する場合は、次の手順に従う。

1. Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD を CD-ROM ドライブに挿入し、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境のインストールを開始します。
2. 次のメッセージが表示されたら、ディスクスライスの名前 (*disk-slice-name*) を書き留めます。

Solaris インストールソフトウェアの一時コピーを
ディスクスライス *disk-slice-name* に配置します。
ファイルがコピーされた後に、システムがリブートされ、
インストール処理が継続されます。しばらくお待ちください ...

3. Stop-A キーを押すか、またはシステムに電源を再投入して、インストール処理を中断します。

ok プロンプトが表示されます。

4. スタンドアロンモードで Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD からシステムを起動します。

```
ok boot cdrom -s
```

5. 端末ウィンドウで、次のように `ls` コマンドを入力し、手順 2 で書き留めたディスクスライスの物理名を決定します。

```
# ls -l /dev/dsk/disk-slice-name
```

このコマンドにより、次のような出力が返されます。

```
lrwxrwxrwx 1 root root 2 Aug 14 16:56 /dev/dsk/disk-slice-name  
-> ../../devices/physical-name
```

6. ディスクスライスの物理名 (*physical-name*) を書き留めます。先頭の `../../devices` は物理名から省きます。
7. システムを停止して、ok プロンプトに戻ります。

```
# halt
```

8. 次のコマンドを入力して、物理デバイスからシステムを起動します。

```
ok boot /physical-name
```

Netscape 6.2.3 のローカライズパッケージは DVD または CD から自動的にインストールされない (バグ ID: 4709348)

Netscape™ 6.2.3 の基本パッケージとローカライズパッケージが、Solaris 9 9/02 SOFTWARE DVD および Solaris 9 9/02 SOFTWARE 2 of 2 CD の `Solaris_9/ExtraValue/CoBundled/Netscape_6` ディレクトリに置かれています。ただし、`Solaris_9/ExtraValue/CoBundled/Netscape_6` ディレクトリにある `NS62installer` によってシステムにインストールされるのは、基本パッケージだけです。

回避方法: `pkgadd(1M)` コマンドを使って、Netscape 6.2.3 のローカライズパッケージをシステムにインストールします。次の手順に従ってください。

1. スーパーユーザーになります。
2. Solaris 9 9/02 SOFTWARE DVD または Solaris 9 9/02 SOFTWARE 2 of 2 CD をドライブにセットします。
3. ローカライズパッケージのあるディレクトリに移ります。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_9/ExtraValue/CoBundled/Netscape_6/Packages
```

4. pkgadd コマンドを使用します。インストールしたいパッケージの名前を指定します。

```
# pkgadd -d . name-of-localization-package
```

注 - Packages ディレクトリには、次のようなローカライズパッケージがあります。

- SUNWcns6 - 中国語 (簡体字) ローカライズ
- SUNWdens6 - ドイツ語ローカライズ
- SUNWesns6 - スペイン語ローカライズ
- SUNWfrns6 - フランス語ローカライズ
- SUNWhns6 - 中国語 (繁体字) ローカライズ
- SUNWitns6 - イタリア語ローカライズ
- SUNWjans6 - 日本語ローカライズ
- SUNWkns6 - 韓国語ローカライズ
- SUNWplns6 - ポーランド語ローカライズ
- SUNWptns6 - ブラジル・ポルトガル語ローカライズ
- SUNWruns6 - ロシア語ローカライズ
- SUNWsvns6 - スウェーデン語ローカライズ

Toshiba SD-M1401 DVD-ROM を持つシステムで Solaris DVD からのブートが失敗する (バグ ID: 4467424)

システムに、ファームウェアリビジョン 1007 の Toshiba SD-M1401 DVD-ROM ドライブが含まれていると、Solaris 9 9/02 DVD からのブートが失敗します。

回避方法: パッチ 111649-03 以降を適用して Toshiba SD-M1401 DVD-ROM ドライブのファームウェアを更新します。パッチ 111649-03 は、Solaris 9 9/02 Supplement CD の次のディレクトリにあります。

DVD_Firmware/Patches

パッチのインストール方法については、上記のディレクトリにある README ファイルを参照してください。パッチをインストールする前に、README ファイルに記載されている注意事項や警告内容のすべてに目を通して、その内容に従って作業してください。

Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 9 9/02 DVD 上のデータにアクセスできない (バグ ID: 4511090)

Solaris 2.6 オペレーティング環境または Solaris 7 オペレーティング環境を実行しているシステムでは、Solaris 9 9/02 DVD がボリューム管理によって正しくマウントされません。そのため、インストールサーバーを設定したり、Live Upgrade を実行したり、メディア上のデータにアクセスすることができません。

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- システムに対応したパッチを適用する。

表 2-4 Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境用の DVD パッチ

リリース	パッチ ID
Solaris 2.6 オペレーティング環境	107618-03
Solaris 7 オペレーティング環境	107259-03

- Solaris 9 9/02 DVD をマウントする。

ただし、ボリューム管理を使用しないでください。次の手順に従って、手動で DVD をマウントします。

1. スーパーユーザーになります。
2. ボリューム管理を停止します。

```
# /etc/init.d/volmgt stop
```

3. 手動で DVD をマウントします。

```
# mkdir /mnt1  
# mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s0 /mnt1
```

4. DVD がマウントされていて、DVD 上のデータにアクセスできることを確認します。

```
# cd /mnt1  
# ls
```

DVD が正しくマウントされている場合は、システムから次の情報が返されません。

```
Copyright Solaris_9
```

Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報

Solaris Web Start 3.0 を使用したインストールに関する情報と問題について説明します。この節に記載されている問題は、Solaris suninstall プログラムを使用するときには発生しません。

Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の Solaris 9 9/02 ドキュメントをインストールする方法

Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 1 of 2 CD (英語版 + ヨーロッパ言語版) には、英語のドキュメントがすべて含まれています。アジア版の DOCUMENTATION 2 of 2 CD には、一部のアジア言語にだけ翻訳されている、またはまったく翻訳されていない、以下の英語ドキュメントが含まれています。

Solaris 9 Software Developer Collection

Solaris 9 9/02 System Administrator Collection

iPlanet Directory Server 5.1 Collection

DOCUMENTATION 2 of 2 CD に付属のインストーラでは、これらのドキュメントの HTML 版が、デフォルトでインストールされます。すべての英語ドキュメントをインストールする場合は、DOCUMENTATION 1 of 2 CD からインストールする必要があります。

Solaris 9 9/02 INSTALLATION (Multilingual) CD から Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris オペレーティング環境をインストールする場合、上記の英語版 HTML ドキュメントは DOCUMENTATION 2 of 2 CD からデフォルトでインストールされます。すべての英語ドキュメントをインストールする場合は、Solaris Web Start 3.0 の「製品の選択」画面で「Solaris 9 Documentation European」を選択して、DOCUMENTATION 1 of 2 CD からドキュメントをインストールしてください。

Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD からのインストールに関する注意事項とバグ情報

Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD からインストールする場合の注意事項と問題について説明します。

インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)

複数のネットワークインタフェースを持つシステムに Solaris 9 9/02 オペレーティング環境をインストールまたはアップグレードした場合、システムはすべてのシステムインタフェースが使用可能であると認識します。つまり、ネットワークにプラグインされていない、あるいは使用する予定のないインタフェースが `ifconfig -a` コマンドの出力に表示されます。さらに、同じイーサネットアドレスを持つインタフェースに同じ IP アドレスが割り当てられることがあります。その場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ifconfig: setifflags: SIOCSLIFFLAGS: qfe3: Cannot assign requested address
```

この問題は、`local-mac-address` PROM 変数が `false` に設定されているシステム上でも発生します。この問題が発生するのは、すべてのインタフェースが同じ IP アドレスで構成されるためです。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 構成されたインタフェースだけを使用するには、初期ブート後にシステムをリブートする。
- 各ネットワークインタフェースに異なる IP アドレスを割り当てるには、次のいずれかの方法で `local-mac-address` PROM 変数を `true` に設定する。
 - `ok` プロンプトで、次のコマンドを入力する。

```
ok setenv local-mac-address? true
```
 - スーパーユーザーとして、次のコマンドを端末ウィンドウに入力する。

```
# eeprom local-mac-address?=true
```

ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127)

インストール中、ファイルシステムの作成時に、次のどちらかの警告メッセージが出力される可能性があります。

```
Warning: inode blocks/cyl group (87) >= data blocks (63) in last cylinder group. This implies 1008 sector(s) cannot be allocated.
```

または

```
Warning: 1 sector(s) in last cylinder unallocated
```

この警告メッセージは、作成中のファイルシステムのサイズと使用しているディスク上の容量が等しくない場合に表示されます。この場合、ディスク上に、作成中のファイルシステムには取り込まれない未使用の領域ができます。この未使用のディスク領域は、他のファイルシステムに割り当ててはできません。

回避方法: 警告メッセージは無視してください。警告メッセージが表示されても問題は発生しません。

[日本語環境のみ] CD からのインストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項

CD からのインストールにおいて、ソフトウェアグループとして「コアシステムサポート」を選択した場合、インストールするロケールとして日本語ロケールを選択しても、LANGUAGES CD に含まれる日本語パッケージはインストールされません。これは、SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールが完了し、システムがリブートした後、コアシステムの環境で LANGUAGES CD のインストールを起動できないためです。

回避方法: インストール終了後、次のように `pkgadd (1M)` コマンドを使用して LANGUAGES CD に含まれる必要な日本語パッケージをインストールしてください。

```
# cd /cdrom/sol_9_902_lang_sparc/components/Japanese/sparc/Packages
# pkgadd -d . SUNWjfpref SUNWjfpue SUNWjos SUNWjws2
```

LANGUAGES CD のイメージを含むインストールサーバーを使用して Solaris `suninstall` プログラムによるインストールを行う場合や、Solaris Web Start 3.0 でインストールする場合は、この問題は起こりません。

アップグレードに関する注意事項とバグ情報

旧リリースの Solaris がインストールされているシステムを、Solaris 9 9/02 にアップグレードする場合の注意事項とバグについて説明します。

CD を使用して Solaris 8 2/02 から Solaris 9 9/02 にアップグレードする場合に、インストール時のダイアログのメッセージが正しく表示されない (バグ ID: 4704720)

Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用し、Solaris 8 2/02 から Solaris 9 9/02 にアップグレードする場合、1 of 2 CD のアップグレード完了後にシステムをリブートすると、引き続き、2 of 2 CD のアップグレードを促すダイアログが表示されます。その際、ダイアログ上の日本語メッセージが正しく表示されません。

回避方法: 1 of 2 CD のアップグレードが完了したら、システムをリブートする前に次の手順を実行してください。

```
# cd /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/75dpi
# /usr/openwin/bin/mkfontdir .
# cd ../TTbitmaps
# /usr/openwin/bin/mkfontdir .
# cd ../TT
# /usr/openwin/bin/mkfontdir .
```

Solaris 9 9/02 オペレーティング環境に、SUNWsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない

使用している Solaris 8 システムが、Storage Area Network (SAN) に接続されている場合、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードする前にサポートエンジニアに確認してください。SUNWsan がインストールされている Solaris 8 システムを、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードするには特別な手順が必要があります。システムに SUNWsan パッケージがインストールされているかどうかを確認するには、端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
# pkginfo SUNWsan
```

SUNWsan パッケージがインストールされていると、次の情報が表示されます。

Solaris suninstallプログラムによるアップグレードでのロケール選択

Solaris 8 から、インストールするロケールを選択する機構が変更されました。このため、Solaris suninstallプログラムを使用して Solaris 8 より前のシステムを Solaris 9 9/02 へアップグレードすると、既存システムのインストール時に明示的にインストールしなかったロケールが「地域の選択」画面で自動的に選択されます。これは、既存システムのインストール時に明示的に指定していないロケールのソフトウェアが、暗黙のうちにインストールされていたためです。

既存システムのインストール時にインストールするロケールとして明示的に指定しなかったロケールが含まれている地域を、「地域の選択」画面で選択解除することができます。余分なロケールをそのまま選択解除せずにアップグレードを行なっても問題はありません。アップグレードしたシステムには、アップグレード前と同じレベルのロケール環境がサポートされます。ただし、既存のシステムに明示的にインストールしたロケールは、「地域の選択」画面で削除することはできません。

旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアと互換性がない

Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアは、旧バージョンの Solaris Management Console 1.0、1.0.1、1.0.2 ソフトウェアと互換性がありません。Solaris Management Console™ 1.0、1.0.1、1.0.2 のいずれかのソフトウェアがインストールされた状態で Solaris 9 9/02 オペレーティング環境およびその互換バージョンにアップグレードする場合は、アップグレードの前に Solaris Management Console ソフトウェアをアンインストールする必要があります。システムに SEAS 2.0、SEAS 3.0、Solaris 8 Admin Pack のいずれかがインストールされていると、Solaris Management Console ソフトウェアが終了することがあります。

回避方法：次のいずれかを実行してください。

- アップグレードする前に /usr/bin/prodreg コマンドを実行して、Solaris Management Console ソフトウェアのフルアンインストールを行います。
- アップグレード前に Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 をアンインストールしていなかった場合は、Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 のすべてのパッケージを削除する必要があります。パッケージの削除には prodreg コマンドではなく、pkgrm コマンドを使用します。必ず、手順に記載された順番どおりに削除してください。以下の手順に従います。
 1. スーパーユーザーになります。

2. 次のコマンドを実行します。

```
# pkginfo |grep "Solaris Management Console"  
# pkginfo |grep "Solaris Management Applications"  
# pkginfo |grep "Solaris Diskless Client Management Application"
```

上記の出力結果で、パッケージ名の説明文の先頭に「Solaris Management Console 2.1」という文字列がない場合、そのパッケージは Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアのパッケージです。

3. `pkgrm` を使用して、Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 – 説明文に「Solaris Management Console 2.1」という文字列が含まれているパッケージは削除しないでください。たとえば、`SUNWmc.2` は Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアのパッケージです。

注 – `pkginfo` の出力に、複数のバージョンの Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージが含まれている場合は、`pkgrm` を使用して、すべてのバージョンを削除してください。このとき、パッケージ名の末尾に番号が付いていないものを先に削除します。その後で、末尾に番号が付いているものを削除してください。たとえば、`pkginfo` の出力に `SUNWmcman` と `SUNWmcman.2` が含まれている場合、最初に `SUNWmcman` を削除して、次に `SUNWmcman.2` を削除します。`prodreg` は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWmcman  
# pkgrm SUNWmcapp  
# pkgrm SUNWmcsvr  
# pkgrm SUNWmcsvu  
# pkgrm SUNWmc  
# pkgrm SUNWmcc  
# pkgrm SUNWmcsws
```

4. 端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# rm -rf /var/sadm/pkg/SUNWmcapp
```

これで Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。将来 Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアの保守を行う際は、または、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能しない場合は、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアをいったん削除します。次の手順で再インストールしてください。

1. `pkgrm` を使用して、Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 – SUNWmc と SUNWmc.2 のように、ある Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアパッケージに対して複数のインスタンスがシステム上に存在する場合は、最初に SUNWmc を削除して、次に SUNWmc.2 を削除してください。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWjadcl
# pkgrm SUNWjrmui
# pkgrm SUNWjlvmg
# pkgrm SUNWjmga
# pkgrm SUNWjsmc
# pkgrm SUNWpmgr
# pkgrm SUNWrmui
# pkgrm SUNWlvmg
# pkgrm SUNWlvma
# pkgrm SUNWlvmr
# pkgrm SUNWdclnt
# pkgrm SUNWmga
# pkgrm SUNWmgapp
# pkgrm SUNWmcdev
# pkgrm SUNWmcex
# pkgrm SUNWwbmc
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmccom
```

2. Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC 版) を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_902_sparc/s0/Solaris_9/Product
# pkgadd -d . SUNWmgapp
```

3. CD を取り出して、Solaris 9 9/02 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC 版) を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_902_sparc_2/s0/Solaris_9/Product
# pkgadd -d . SUNWmccom SUNWmcc SUNWmc SUNWwbmc SUNWmcex SUNWmcdev SUNWmga SUNWdclnt
```

4. CD を取り出して、Solaris 9 9/02 LANGUAGES CD (SPARC 版) を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_902_lang_sparc/s0/components/Japanese/sparc/Packages
# pkgadd -d . SUNWjsmc SUNWjmga SUNWjadcl SUNWjlvmg SUNWjrmui
```

これによって、すべての旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアが削除され、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。

フラッシュアーカイブをインストールするときに Live Upgrade がブート環境の /etc/group ファイルをアップデートしない (バグ ID: 4683186)

Solaris Live Upgrade を使ってフラッシュアーカイブをブート環境にインストールする場合、/etc/group ファイルが正しくありません。アーカイブには、アーカイブされた /etc/group ファイルが含まれており、現在実行されているブート環境の /etc/group ファイルを反映していません。ブート環境の /etc/group ファイルは、現在実行されているシステムのファイルと同一でなければなりません。

回避方法: ブート環境にフラッシュアーカイブをインストールした後、/etc/group ファイルを、現在実行されているシステムから新しいブート環境にコピーする必要があります。次の手順に従ってください。

1. スーパーユーザーになります。
2. 新しいブート環境をマウントします。

```
# lumount boot-envir-name mount-point
```

上記のコマンドで、*boot-envir-name* には、マウントしたいファイルシステムが属しているブート環境の名前を指定します。*mount-point* には、ファイルシステムのマウントポイントを指定します。
3. /etc/group ファイルを、現在実行されているシステムから新しいブート環境にコピーします。

```
# cp /etc/group mount-point/etc/group
```
4. 新しいブート環境をアンマウントします。

```
# luumount boot-envir-name
```

パッチリストファイルを指定したときに、 luupgrade コマンドがパッチを追加できない (バグ ID: 4679511)

-s オプション付きで luupgrade コマンドを使用し、ディレクトリとパッチリストファイルを指定してパッチを追加する場合、パッチが追加されません。このとき、たとえば次のようなメッセージが表示されます。

```
/usr/sbin/luupgrade [52]:          3 patch-list-file: bad number
```

上記のメッセージで、*patch-list-file* は、パッチを追加するために luupgrade コマンドに指定したパッチリストファイルです。

回避方法: パッチリストファイルを指定してパッチを追加するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. パッチを当てたいブート環境をマウントします。

- ```
lumount boot-envir-name mount-point
```
- ブート環境にパッチを追加します。

```
/usr/sbin/patchadd -R mount-point -M patch-path patch-list-file-name
```

上記のコマンドで、*patch-path* には、追加するパッチの入ったディレクトリのパス名を指定します。*patch-list-file-name* には、追加したいパッチのリストの入ったファイルを指定します。
  - ブート環境をアンマウントします。

```
luumount boot-envir-name
```

## アップグレードの際に、SUNWjxcft パッケージの削除でエラーが記録される (バグ ID: 4525236)

Solaris 8 オペレーティング環境から Solaris 9 9/02 オペレーティング環境へのアップグレードの際、SUNWjxcft パッケージが削除されるときに、問題が発生します。次のようなエラーメッセージが `upgrade_log` ファイルに記録されます。

```
Removing package SUNWjxcft:
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias
```

```
Removal of <SUNWjxcft> was successful
```

回避方法: このエラーメッセージを無視します。

## Solaris 8 オペレーティング環境からアップグレードすると、冗長な Kerberos プライバシ機構が作成される (バグ ID: 4672740)

Solaris 9 9/02 オペレーティング環境では、Kerberos Version 5 グローバル機構はプライバシーサポートを含んでおり、Kerberos ドメスティック機構は必要ありません。Kerberos ドメスティック機構 (`/usr/lib/gss/do/mech_krb.so.1` にある) を Solaris 8 システムにインストールしている場合、システムを Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードする前に、Kerberos ドメスティック機構を削除してください。

回避方法: Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードする前に、次の手順に従ってください。

- 次のコマンドを入力して、Kerberos ドメスティック機構がシステムにインストールされているかどうかを確認します。

```
% pkginfo | fgrep ' SUNWk5'
```

- このコマンドの出力に SUNWk5 で始まるパッケージ名が含まれる場合、Kerberos ドメスティック機構はシステムにインストールされています。手順 2 に進んでください。
- このコマンドの出力に SUNWk5 で始まるパッケージ名が含まれていない場合、Kerberos ドメスティック機構はインストールされていません。残りの手順を省略します。システムをアップグレードしてください。

2. 次のコマンドを入力して、`/etc/nfssec.conf` と `/etc/gss/qop` ファイルをバックアップします。

```
% tar -cf /var/tmp/krb_config_files.tar /etc/nfssec.conf /etc/gss/qop
```

3. 次のコマンドを入力して、ファイルがバックアップされていることを確認します。

```
% tar -tf /var/tmp/krb_config_files.tar
```

4. 手順 1 の出力に含まれていた各パッケージを削除します。

```
% pkgrm package-name package-name package-name
```

5. Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードします。

アップグレードプログラムは Kerberos グローバル機構コードを更新して、Kerberos プライバシサポートを有効にします。

6. テキストエディタで、`/etc/gss/mech` ファイルの次の行を変更します。

- 次の行のコメントを解除します。

```
kerberos_v5 1.2.840.113554.1.2.2 g1/mech_krb5.so g1_kmech_krb5
```

必要であれば、上記行を `/etc/gss/mech` ファイルに追加します。

- 次の行を削除します。

```
kerberos_v5 1.2.840.113554.1.2.2 do/mech_krb5.so do_kmech_krb5
```

- 次のコマンドを入力して、`/etc/nfssec.conf` ファイルと `/etc/gss/qop` ファイルを復元します。

```
% tar -xf /var/tmp/krb_config_files.tar
```

## Solaris 9 および Solaris 9 9/02 の韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語などアジア言語の一部のパッケージの preremove スクリプトが、アップグレード中に正しく実行されない (バグ ID: 4707449)

Solaris 9 および Solaris 9 9/02 ソフトウェアの韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語などアジア言語の一部のパッケージに含まれている preremove スクリプトが、Disk Space Reallocation (DSR) でのアップグレード中に正しく実行されません。Solaris オペレーティング環境の新しいリリースにアップグレードしようとする、次のエラーメッセージが /var/sadm/system/logs/update\_log ファイルに出力されます。

```
Removing package SUNWkwbcpl:
/a/var/sadm/pkg/SUNWkwbcpl/install/preremove: /a/usr/4lib: does not exist
pkgrm: ERROR: preremove script did not complete successfully
```

Removal of *SUNWkwbcpl* failed.

pkgrm return code = 1

Removing package SUNWkbcpl:

```
/a/var/sadm/pkg/SUNWkbcpl/install/preremove: /a/usr/4lib: does not exist
```

```
pkgrm: ERROR: preremove script did not complete successfully
```

Removal of *SUNWkbcpl* failed.

pkgrm return code = 1

Removing package SUNWcwbcpl:

```
/a/var/sadm/pkg/SUNWcwbcpl/install/preremove: /a/usr/4lib: does not exist
```

```
pkgrm: ERROR: preremove script did not complete successfully
```

Removal of *SUNWcwbcpl* failed.

pkgrm return code = 1

Removing package SUNWcbcp:

```
/a/var/sadm/pkg/SUNWcbcp/install/preremove: /a/usr/4lib: does not exist
```

```
pkgrm: ERROR: preremove script did not complete successfully
```

Removal of *SUNWcbcp* failed.

pkgrm return code = 1

Removing package SUNWhwbcpl:

```
/a/var/sadm/pkg/SUNWhwbcpl/install/preremove: /a/usr/4lib: does not exist
```

```
pkgrm: ERROR: preremove script did not complete successfully
```

Removal of *SUNWhwbcpl* failed.

pkgrm return code = 1

Removing package SUNWhbcpl:

```
/a/var/sadm/pkg/SUNWhbcpl/install/preremove: /a/usr/4lib: does not exist
```

```
pkgrm: ERROR: preremove script did not complete successfully
```

Removal of *SUNWhbcpl* failed.

pkgrm return code = 1

回避方法: このエラーメッセージを無視します。

## Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (バグ ID: 4626093)

/etc/init.d/sshd デーモンから他社の Secure Shell (OpenSSH など) を実行しているシステムの場合、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードすると、既存の Secure Shell デーモンが使用できなくなります。アップグレード時に、Solaris 9 9/02 のアップグレードソフトウェアが、Solaris 9 9/02 の sshd で /etc/init.d/sshd の内容を上書きし、既存の sshd が失われます。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムが不要な場合は、アップグレード時に SUNWsshdr パッケージと SUNWsshdu パッケージをインストールしない。
- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムまたはクライアントプログラムが不要な場合は、アップグレード時に Secure Shell Cluster (SUNWCssh) をインストールしない。

## /export が満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (バグ ID: 4409601)

/export ディレクトリの空き容量がゼロに近い状態で、システムを Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードしようとする、/export ディレクトリ容量の必要条件の計算に誤りが発生し、アップグレードに失敗します。この問題は、ディスククライアントがインストールされているか、/export ディレクトリに他社製のソフトウェアがインストールされている場合によく発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
WARNING: Insufficient space for the upgrade.
```

回避方法: アップグレードの前に、次のいずれかを実行してください。

- アップグレードが完了するまで、一時的に /export ディレクトリの名前を変更する
- アップグレードが完了するまで、/etc/vfstab ファイル内の /export の行を一時的にコメントアウトする
- /export が別のファイルシステムである場合は、アップグレードを実行する前に /export のマウントを解除する

## ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)

現在のシステムが、AdminSuite™ 2.3 の Diskless Client ツールによってインストールされたディスクレスクライアントをサポートしている場合、既存のディスクレスクライアントのうち、サーバーと同じ Solaris バージョンで同じアーキテクチャのものをすべて先に削除しておく必要があります。そのあとで、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境をインストールするか、または Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードします。具体的な手順については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

ディスクレスクライアントを削除せずに Solaris 9 9/02 をインストールしようとする、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
The Solaris Version (Solaris 7) on slice <xxxxxxx> cannot be upgraded.
There is an unknown problem with the software configuration installed
on this disk.
```

スライス <xxxxxxx> 上の Solaris のバージョン (Solaris 7) がアップグレードできません。ディスク上にインストールされたソフトウェア構成に未知の問題があります。

このエラーメッセージの *version-number* は、現在、システムで稼働している Solaris のバージョンを表します。<xxxxxxx> は、このバージョンの Solaris オペレーティング環境を実行しているスライスです。

## Web-Based Enterprise Management (WBEM) データ消失防止のための JavaSpaces データストアのアップグレード (バグ ID: 4365035)

Solaris 8 (Solaris WBEM Services 2.0) または Solaris 8 6/00 (WBEM Services 2.1) オペレーティング環境から、Solaris 9 9/02 (Solaris WBEM Services 2.5) オペレーティング環境にアップグレードする場合は、既存のデータが失われます。

回避方法: アップグレードを実行した後、独自の Managed Object Format (MOF) ファイルをコンパイルし直します。

## アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)

Solaris 9 9/02 へのアップグレードを行うと、アップグレード時に設定したデフォルトロケールがシステムのデフォルトロケールに正しく設定されない場合があります。

Solstid 9 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用したアップグレードの場合、Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールの終了後、自動ブートしたシステムが英語環境で起動し、SOFTWARE 2 of 2 CD および LANGUAGES CD のインストール画面が英語で表示されることがあります。

回避方法: アップグレード終了後、システムのデフォルトロケールを /etc/default/init ファイルの LANG 環境変数に設定してください。

## 日本語フォントディレクトリに、古いフォント設定ファイルが残ってしまう (バグ ID: 4525236)

Solaris 8 および Solaris 8 アップデートリリースから Solaris 9 9/02 へアップグレードを行うと、アップグレードログに以下のようなメッセージと共に、古いフォント設定ファイル(ファイル末尾に :8 が付く)が残ります。

パッケージ SUNWjxcft を削除中:

```
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias
```

回避方法: 古いフォント設定ファイルは削除してください。

```
rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr:8
rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale:8
rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias:8
rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr:8
rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale:8
rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias:8
```

---

## インストール全般に関する注意事項とバグ情報

Solaris 9 9/02 のインストール全般に関する注意事項とバグ情報を説明します。

## スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)

同梱されている CD を、その CD に含まれている Solaris Web Start 2.x (installer) を使用して日本語ロケール (日本語表示) でインストールしているときに、スワップ容量の不足のためインストールが失敗することがあります。この場合、コンソールにエラーメッセージが表示されますが、エラーメッセージは次のように文字化けしています。

```
RunCmd Error:java.io.IOException: ??????????????????????
```

回避方法: 同梱されている CD に含まれている Solaris Web Start 2.x は、実行時におよそ 50M バイトのメモリーを消費します。Solaris Web Start 2.x を使用してインストールする場合は、`swap -s` コマンドなどで空きスワップ容量を確認し、不足している場合は、メモリーの消費量が多いアプリケーションを終了するか、スワップファイルを作成してスワップ領域を追加してください。詳細は、`swap (1M)` のマニュアルページを参照してください。

## [日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される

選択したデフォルトロケールに関係なく、`install_log`、`upgrade_log` などの Solaris のインストールログファイルは、EUC (ja ロケール) テキストとして生成されます。

回避方法: コードコンバータで変換して参照するか、テキストエディタなどの GUI ツールを ja ロケールで起動して参照してください。

## [日本語環境のみ] 日本語キーボード入力

日本語タイプ 5 キーボードは OpenBoot PROM のバージョンによっては、モニターレベルでタイプ 4 キーボードとして動作します。そのため、モニターレベルでは、キーボード上の印字と実際の入力が一部異なります。次の表を参照してください。その他の注意事項は、U.S. タイプ 5 キーボードと同じです。『Sun タイプ 5 キーボードプロダクトノート』を参照してください。

表 2-5 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字

| 日本語タイプ 5 キーボード上の印字 | 実際の入力文字 |
|--------------------|---------|
| “                  | @       |
| &                  | ^       |

表 2-5 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字 (続き)

| 日本語タイプ 5 キーボード上の印字 | 実際の入力文字 |
|--------------------|---------|
| '                  | &       |
| (                  | *       |
| )                  | (       |
| Shift-0            | )       |
| =                  | -       |
| ~                  | +       |
| ^                  | =       |
| ¥                  | \       |
| @                  | [       |
| '                  | {       |
| [                  | ]       |
| {                  | }       |
| +                  | :       |
| :                  | '       |
| *                  | "       |
| ]                  | '       |
| }                  | ~       |
| -                  | LF      |
| \                  | LF      |

## 64 ビット Solaris に関する注意事項とバグ情報

64 ビット Solaris をインストールする場合の、注意事項とバグ情報について説明します。



## 一部の Sun UltraSPARC システム (Sun4U) では、ブート Flash PROM をアップデートする必要がある

---

注 - システムがすでに 64 ビット対応のファームウェアを実行している場合、Flash PROM のアップデートは不要です。

---

UltraSPARC® システム上で 64 ビット Solaris オペレーティング環境を実行する場合、Flash PROM ファームウェアのアップデートが必要な場合があります。Solaris 9/02 インストールプログラムには、64 ビットサポートを追加する選択肢があります。UltraSPARC システムにインストールする場合は、この 64 ビットサポートがデフォルトで選択されます。64 ビットシステムは、200MHz 以上の CPU 速度を持つ場合のみ、デフォルトで 64 ビットでブートします。

---

注 - Sun システムまたは UltraSPARC システムで 32 ビット Solaris オペレーティング環境を実行する場合は、Flash PROM のアップデートは不要です。

---

次の表に、UltraSPARC (Sun4U™) システムと必要な最小限のファームウェアバージョンを示します。システムタイプは、`uname -i` コマンドを実行して確認できます。実行中のファームウェアバージョンは、`prtconf -v` コマンドを実行して確認できます。

表 2-6 UltraSPARC システム上で 64 ビット Solaris を実行するために必要なファームウェアバージョン

| システムタイプ ( <code>uname -i</code> で出力される) | 必要最小限のファームウェアバージョン ( <code>prtconf -v</code> で出力される) |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------|
| SUNW,Ultra-1-Engine                     | 3.10.0                                               |
| SUNW,Ultra-1                            | 3.11.1                                               |
| SUNW,Ultra-2                            | 3.11.2                                               |
| SUNW,Ultra-4                            | 3.7.107                                              |
| SUNW,Ultra-Enterprise                   | 3.2.16                                               |

---

注 - この表に記載されていないシステムでは、Flash PROM をアップデートする必要はありません。

---

Solaris CD を使用して Flash PROM をアップデートする方法については、「*Solaris 9 on Sun Hardware Collection*」のマニュアルをご覧ください。このコレクション中のマニュアルは、<http://docs.sun.com> で参照することができます。

---

## DOCUMENTATION CD に関する注意事項

### Solaris 2.6、7、および 8 オペレーティング環境が稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前の文書パッケージをインストールできない

翻訳された PDF 形式の文書コレクションの中には、パッケージ名が 9 文字を超えるものがあります。Solaris 7 または 8 オペレーティング環境が稼働しているサーバーに、このような PDF コレクションをインストールする場合は、先にパッチを 2 つインストールしておく必要があります。

---

注 - このリリースの時点では、Solaris 2.6 サーバー用のパッチはありません。

---

回避方法: 各パッチのインストール手順については、文書メディア (Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD 1 of 2、2 of 2、または DVD) に収録されている Solaris Documentation Important Information (『Solaris ドキュメントに関する重要情報』) ファイルを参照してください。このファイルは、次のディレクトリにあります。

`mount-point/README/locale/install_locale.html`

たとえば、Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD 1 of 2 の英語ファイルは、次のディレクトリにあります。

`sol_9_902_doc_1of2/README/C/install_C.html`

---

## DOCUMENTATION CD のインストールに関するバグ情報

### Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)

Solaris 9 Product Registry から立ち上げる Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD の uninstaller で「全体」を選択した場合、uninstaller はデフォルトでインストールされるマニュアルパッケージしか削除しません。

回避方法: uninstaller のアンインストール形式の選択で「部分」を選択して、アンインストールしたいパッケージを選択します。

### カスタムインストールの言語選択画面が正しく表示されないことがある (バグ ID: 4618350)

インストールプログラムの「インストール形式の選択」で、一度一般インストールを選択すると、「インストール形式の選択」画面に戻ってカスタムインストールを選択しても、言語選択画面に選択可能なすべての言語を表示できなくなります。

回避方法: インストールプログラムをもう一度立ち上げ直し、初めにカスタムインストールを選択してください。

### 特定のロケールでは Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD が Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD 用のプロンプトを表示しない (バグ ID: 4668033)

特定のロケールでは Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD を使用する場合、インストールプログラムは Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD からパッケージをインストールするかどうかをたずねません。この問題は、EUC 以外の次のロケール選択で発生します。EUC ロケール (日本語環境なら ja ロケール) を選択することで問題は回避できます。

- ja\_JP.PCK

- ja\_JP.UTF-8
- ko.UTF-8
- zh.GBK
- zh.UTF-8
- zh\_CN.18030
- zh\_HK.BIG5HK
- zh\_HK.UTF-8
- zh\_TW.BIG5
- zh\_TW.UTF-8

回避方法: 次のいずれかの回避方法を選択してください。

- Solaris 9 9/02 ソフトウェアをインストールするときに、デフォルトのインストールロケールとして、EUC ロケール (ja、ko、zh、または zh\_TW) の1つを選択する。
- Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD から、直接 `installer` ユーティリティを実行する。

## コマンド行インタフェースモードでは DOCUMENTATION CD の確認画面が表示されない (バグ ID: 4520352)

`-nodisplay` オプションを指定して Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用すると、確認画面が正しく表示されないことがあります。

回避方法: Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用するときに、`-nodisplay` オプションを指定しないでください。Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD をインストールするときには、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) モードを使用してください。

---

## インストール時のローカライズに関する 注意事項

### 選択したロケール以外のロケールもインストール されることがある

Solaris 9 9/02 では、インストールするロケールを選択した場合、関連するほかのロケールもインストールされることがあります。これは、すべての完全ロケール (メッセージが翻訳されている) とアジアおよび日本語の部分ロケールが、言語単位でパッケージ化し直されたためです。ほかの部分ロケールは従来通りに地理上の分類 (中央ヨーロッパなど) に基づいて、パッケージ化されてインストールされます。

---

## インストール時のローカライズに関する バグ情報

### Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォント パッケージが Solaris 9 9/02 オペレーティング環境 にアップグレードされない (バグ ID: 4653908)

簡体字中国語または繁体字中国語のロケールを含んだ Solaris Beta Refresh オペレーティング環境が動作しているシステムを Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードする場合、簡体字中国語と繁体字中国語の CDE フォント各国語対応パッケージ (SUNWcdft または SUNWhdft) が適切な Solaris 9 9/02 パッケージにアップグレードされないため、アップグレードは正常に完了しません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Removing package SUNWcdft:
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
/a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.EUC: does not exist
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
/a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.GBK: does not exist
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
/a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.UTF-8: does not exist
pkgrm: ERROR: postremove script did not complete successfully
```

回避方法: Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードする前に、Solaris 9 Beta Refresh の postremove ファイルを適宜削除します。

```
rm /var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove
rm /var/sadm/pkg/SUNWhdft/install/postremove
```

## タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング環境が動作しているシステムをアップグレードすると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059)

Solaris 8 Language Supplement CD がインストールされている Solaris 8 オペレーティング環境が動作しているシステムを Solaris 9 9/02 オペレーティング環境にアップグレードする場合、いくつかの無効なタイ語、ロシア語、ポーランド語、およびカタロニア語のロケールパッケージがシステムに残ってしまいます。これらのロケールパッケージでは ARCH=sparc64 が設定されているので、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境へのアップグレード時に削除されません。

回避方法: オペレーティング環境にアップグレードする前に、Solaris Product Registry アプリケーションを使用して Solaris 8 Languages Supplement CD パッケージを削除してください。

## いくつかのヨーロッパロケールだけをインストールすると UTF-8 ロケールで表示されない文字がある (バグ ID: 4634077)

ヨーロッパロケールの特定のセットを 1 つまたは複数インストールする場合、そのロケールの UTF-8 コードセットにある英語またはヨーロッパ言語文字以外の文字を表示しないことがあります。この問題は次の場合に起こります。

- 次の 1 つまたは複数のロケールをインストールする場合
  - 中東/イスラエル (ISO8859-8)
  - 北アフリカ/エジプト (ISO8859-6)
  - 東ヨーロッパ/ロシア (ISO8859-5)
  - 西ヨーロッパ/トルコ (ISO8859-9)
  - 南アメリカ/ブラジル (ISO8859-1)
  - 中央ヨーロッパ/ポーランド (ISO8859-2)
- システムにほかのロケールをインストールしない場合

回避方法: 次のいずれかの方法を実行してください。

- インストール実行中に、en\_US.UTF-8 北アメリカ/米国ロケールおよびヨーロッパロケールの両方をシステムにインストールする
- インストール終了後に、pkgadd ユーティリティを使用してシステムに次のパッケージを追加する
  - SUNW5ttf — 繁体字中国語 BIG5 True Type フォントパッケージ
  - SUNWcttf — 簡体字中国語 (EUC) True Type フォント
  - SUNWiimr — インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (root)
  - SUNWiimu — インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (usr)
  - SUNWinleu — インド語ロケール環境 user ファイル
  - SUNWinlex — インド言語環境 user ファイル (64 ビット)
  - SUNWinttf — インド語の True Type フォント
  - SUNWjxcft — 日本語必須 TrueType フォント
  - SUNWkttf — 韓国語 True Type フォント
  - SUNWtleu — タイ語ロケール環境 user ファイル
  - SUNWtleux — タイ言語環境 user ファイル (64 ビット)

これらのパッケージは、Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD または CD イメージ上の Solaris9/Product ディレクトリで入手できます。

たとえば、Solaris 9 9/02 SOFTWARE 1 of 2 CD から Solaris 9 9/02 オペレーティング環境をインストールする場合、次のコマンドを入力してください。

```
cd /cdrom/cdrom0/Solaris9/Product
pkgadd -d . SUNW5ttf
pkgadd -d . SUNWcttf
```

前述のリストにある各パッケージに対してこの pkgadd コマンドを繰り返し実行します。





## 第 3 章

---

# 実行時の注意事項とバグ情報

---

この章では、問題として認識されている実行時の問題について説明します。

この章には、Solaris 9 9/02 INSTALLATION CD に含まれている Installation Kiosk、および Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD に含まれている『Solaris 9 9/02 ご使用にあたって (SPARC 版)』の発行後に見つかった、実行時の以下のバグに関する説明が追記されています。

- 62 ページの「Solaris 9 9/02 オペレーティング環境で、UltraSPARC II CP イベントメッセージは、作成されるときと作成されないときがある (バグ ID: 4732403)」

---

## スマートカードのバグ情報

### スマートカードに対してシステムが反応しない (バグ ID: 4415094)

ocfserv が終了し、ディスプレイがロックされている場合は、スマートカードを挿入しても取り出しても、システムはロックされたままになります。

回避方法: 次の手順を実行してシステムのロックを解除してください。

1. ocfserv プロセスが終了したマシンにリモートログインして接続します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 端末ウィンドウで次のように入力して、dtsession プロセスを終了させます。

```
% kill dtsession
```

ocfserv プロセスが再起動し、スマートカードのログインおよびその他の機能が復元されます。

## スマートカード Management Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (バグ ID: 4447632)

スマートカード Management Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目を使用して、`/etc/smartcard/opencard.properties` にあるスマートカードの構成ファイルを編集することができません。メニュー項目を選択すると、テクニカルサポートを受けないと編集を継続できないことを示す警告メッセージが表示されます。

回避方法: スマートカード Management Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目は使用しないでください。スマートカードの設定に関する情報は、『Solaris スマートカードの管理』を参照してください。

---

## 共通デスクトップ環境 (CDE)

Solaris 共通デスクトップ環境 (CDE) の実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

### 共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項

Solaris 9 では、文字集合 JIS X 0212:1990 に対するフォントが、「平成明朝体」から、「RICOH ゴシック体」と「RICOH 明朝体」に変更になりました (今までの平成明朝体も引き続きインストールされますが、利用するにはシステム側の変更が必要となります)。

また、文字集合 JIS X 0213:2000 に関しては UTF-8 ロケール上で利用可能ですが、UNICODE3.1 で定義された文字集合が対象となります (ただし、Java および DPS からの利用はできません)。

### FontList オプションが指定されている場合、コマンド行から起動した dtmail がクラッシュする (バグ ID: 4677329)

dtmail をコマンド行から起動した場合、FontList オプションが指定されていると、IMAP サーバーに接続した後で dtmail がクラッシュします。次の例を参照してください。

```
/usr/dt/bin/dtmail -xrm "Dtmail*FontList: -*-r-normal-*:"
```

次のエラーメッセージが表示されます。

```
Segmentation Fault
```

この問題は、C および ja ロケールの両方で発生します。

回避方法: dtmail をコマンド行から起動するときは、FontList オプションを指定しないでください。

## 行数の多い電子メールの表示中に CDE がハングアップしたようになる (バグ ID: 4418793)

Solaris 9/9/02 Unicode または UTF-8 ロケールで、行数の多い電子メールメッセージを読むと、CDE Mailer (dtmail) がハングアップしたようになり、メッセージがすぐには表示されない

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- 132 桁が表示されるように、dtmail メールボックスウィンドウを拡大する。
- 次の手順で、Complex Text Layout 機能を使用不可にする。
  1. スーパーユーザーになります。
  2. 使用システムのロケールディレクトリに切り替えます。

```
cd /usr/lib/locale/locale-name
```

上の例では、*locale-name* はシステムの Solaris 9/9/02 Unicode ロケール名または UTF-8 ロケール名です。

3. ロケールレイアウトエンジンカテゴリの名前を変更します。

```
mv LO_LTYPE LO_LTYPE-
```

---

注 - パッチを適用する場合は、ロケールレイアウトエンジンカテゴリ名を元の名前 (LO\_LTYPE) に戻してから、ロケールレイアウトエンジンにパッチを適用してください。

---

## PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435)

デスクトップから最後のエントリを削除した後に、PDA デバイスに対して同期処理を実行すると、最後のエントリが PDA デバイスからデスクトップに復元されてしまいます。たとえば、カレンダーの最後のアポイントメントやアドレス帳の最後のアドレスが、削除した後に復元されてしまいます。

回避方法:同期処理を実行する前に、PDA デバイスから最後のエントリを手動で削除してください。

## 国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスとのデータ交換を PDA Sync がサポートしていない (バグ ID: 4263814)

国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスと Solaris CDE とで、日本語などの複数バイト文字のデータを交換すると、両方の環境において、交換した複数バイト文字データが壊れる可能性があります。

回避方法:PDA Sync を実行する前に必ず、PDA デバイスに付属しているバックアップ機能やバックアップユーティリティを使用して、PC などにデータの完全なバックアップをとってください。間違っでデータ交換をしてしまった場合には、バックアップデータからデータを復旧させてください。

## dtmail で不在返信メッセージを作成すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110)

不在返信メッセージを作成する場合、dtmail はその内容を (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングではなく、dtmail を起動したエンコーディングで保存します。このため、不在返信メールを受信した際に、メールの内容が文字化けすることがあります。

回避方法:不在返信メッセージが保存されている .vacation.msg ファイルを、次のように入力して (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングに変更し、保存し直します。

```
% /usr/bin/iconv -f org_locale -t ISO-2022-JP $HOME/.vacation.msg \
> $HOME/.vacation.msg_tmp
% /usr/bin/cp $HOME/.vacation.msg_tmp $HOME/.vacation.msg
```

上記の *org\_locale* には、iconv で使用されるコードセット (dtmail で作成した .vacation.msg ファイルのエンコーディングに対応) を指定します。日本語環境では、次の3つのいずれかです。

eucJP (ja ロケールの場合)  
PCK (ja\_JP.PCK ロケールの場合)  
UTF-8 (ja\_JP.UTF-8 ロケールの場合)

## [日本語環境のみ] ja\_JP.PCK ロケールおよび ja\_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項

- ボリュームマネージャのメッセージを表示するためのダイアログウィンドウは XView™ アプリケーションなので、ja\_JP.PCK ロケールおよび ja\_JP.UTF-8 ロケールでは英語表示で起動されます。
- ja ロケールで登録したカレンダーは、ja\_JP.PCK ロケール および ja\_JP.UTF-8 ロケールで起動されたカレンダー・マネージャで見ることができません (ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールで作成した場合も同様です)。

## [日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565)

Solaris CDE 1.2 より前のメールプログラムで、オプションメニューの「移動メニューの設定」で登録したメールボックス名に日本語文字列が含まれている場合、Solaris CDE 1.2 以降のメールプログラムではそれらのメールボックス名が文字化けすることがあります。

回避方法: Solaris CDE 1.2 あるいは Solaris CDE 1.3 のメールプログラムで、再度登録してください。

---

## システム管理に関するバグ情報

Solaris システムのシステム管理作業を実行する際に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

## Solaris 7 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4394587)

Solaris 7 のディスクレスクライアントを構成する場合、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 106978-10 および 107456-01 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと、ディスクレスクライアント追加時に設定したクライアントのパスワードが、正しく反映されない場合があります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

## Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092)

Solaris 8、Solaris 8 6/00、Solaris 8 10/00 のディスクレスクライアントを日本語環境で構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 110416-02 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと日本語入力システム ATOK12 が正しく動作せず、CDE 上でアプリケーションが正しく起動できないなどの問題が発生することがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

## Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885)

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の Sun4U ディスクレスクライアントを構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 105654-03 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと Sun4U ディスクレスクライアントがブート中にハングアップすることがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

## Solaris 9 9/02 オペレーティング環境で、UltraSPARC II CP イベントメッセージは、作成されるときと作成されないときがある (バグ ID: 4732403)

UltraSPARC II ベースのシステム上で動作する Solaris 9 9/02 オペレーティング環境では、いくつかの訂正不可能なメモリーエラーメッセージを伴う CP イベントメッセージが、常に作成されるわけではありません。このようなシステムの例には、Sun Enterprise™ 10000、Sun Enterprise™ 6500/6000/5500/5000/ 4500/4000/3500/3000 があります。つまり、障害のあった CPU を識別するのに必要な情報が常に得られるわけではありません。

回避方法: この問題に関する最新の情報については、SunSolve の Web サイト <http://sunsolve.sun.com> を確認してください。

## Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースプロバイダを検出できない (バグ ID:4619576)

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは、com.sun.wbem.provider インタフェースまたは com.sun.wbem.provider20 インタフェースに書き込まれたプロバイダを検出できません。これらのインタフェースに書き込まれたプロバイダ用に Solaris\_ProviderPath インスタンスを作成した場合でも、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンはプロバイダを検出しません。

回避方法: デーモンがこのようなプロバイダを検出できるようにするには、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンをいったん停止してから再起動します。

```
/etc/init.d/init.wbem stop
```

```
/etc/init.d/init.wbem start
```

---

注 - javax API を使用してプロバイダを作成した場合は、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンを停止してから再起動する必要はありません。Solaris WBEM Services 2.5 デーモンが javax プロバイダを動的に認識します。

---

## XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (バグ ID:4497393、4497399、4497406、4497411)

javax アプリケーションプログラミングインタフェースではなく、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースを使用して WBEM ソフトウェアを開発する場合、全面的にサポートされるのは、CIM リモートメソッド呼び出し (RMI) だけです。XML/HTTP など、他のプロトコルについては、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースで完全に機能するという保証はありません。

次の表に、RMI では正常に実行され、XML/HTTP では失敗する呼び出しの例を示します。

| メソッド呼び出し                | エラーメッセージ                             |
|-------------------------|--------------------------------------|
| CIMClient.close()       | NullPointerException                 |
| CIMClient.execQuery()   | CIM_ERR_QUERY_LANGUAGE_NOT_SUPPORTED |
| CIMClient.getInstance() | CIM_ERR_FAILED                       |

|                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| メソッド呼び出し                 | エラーメッセージ                     |
| CIMClient.invokeMethod() | XMLERROR: ClassCastException |

## Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでファイルシステムのマウント属性を変更できない (バグ ID: 4466829)

Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでは、/ (root)、/usr、/var などのシステムに必須なファイルシステム上のマウントオプションを変更できません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- mount コマンドとともに remount オプションを使用する。

```
mount -F file-system-type -o remount,additional-mount-options device-to-mount mount-point
```

---

注 --remount オプションを指定した mount コマンドで行なったマウント属性の変更は、一時的なものです。また、上記のコマンドの *additional-mount-options* の部分で指定しなかったマウントオプションのすべてがシステムによって指定されたデフォルト値を継承するわけではありません。詳細は、マニュアルページの `mount_ufs(1M)` を参照してください。

---

- /etc/vfstab ファイル内の適切なエントリを編集することによって、ファイルシステムのマウントプロパティを変更し、システムを再起動する。

## WBEM でデータを追加しようとするとき CIM\_ERR\_LOW\_ON\_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409)

使用可能なメモリー容量が十分でない時に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY
```

メモリー容量が十分でない場合に Common Information Model (CIM) オブジェクトを実行していると、エントリを追加することができません。CIM Object Manager のリポジトリをリセットする必要があります。

回避方法: 次のようにして CIM Object Manager のリポジトリをリセットしてください。

1. スーパーユーザーになります。



2. CIM Object Manager を停止します。

```
/etc/init.d/init.wbem stop
```

3. JavaSpaces™ ログディレクトリを削除します。

```
/bin/rm -rf /var/sadm/wbem/log
```

4. CIM Object Manager を再起動します。

```
/etc/init.d/init.wbem start
```

---

注 - CIM Object Manager のリポジトリをリセットすると、データストアに格納されている独自の定義は失われます。定義が含まれている MOF ファイルを `mofcomp` コマンドを使用して再コンパイルする必要があります。次に例を示します。

```
/usr/sadm/bin/mofcomp -u root -p root_password your_mof_file
```

---

## [日本語環境のみ] Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の Sun ONE Console で GUI 上のレイアウトの問題がある (バグ ID: 4644430)

Sun ONE Console の「証明書の管理」ダイアログ等でボタンが重なって表示されたり、欠けて表示されたりという問題が発生する場合があります。

回避方法: ウィンドウの幅を広げることでこの問題を回避できます。

## admintool を使用してユーザーを作成する場合の注意事項

admintool 上でログインシェルを `sh` または `ksh` に指定してユーザーを作成した場合、ホームディレクトリに自動生成される `.profile` には以下の 1 行が記述されています。

```
stty istrip
```

この行は、入力文字を 7 ビットにストリップすることを意味していますので、このままの設定ではそのユーザーが端末上で日本語入力を行うと、文字が化けてしまいます。

回避方法: 上記の 1 行をコメントにするか、もしくは削除してください。

---

## Solaris ボリュームマネージャの問題

### Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある

シリンダ 0 から始まっていないルート (/) ファイルシステムをミラー化する場合に、接続されるすべてのサブミラーにシリンダ 0 から始まるものを含めることはできません。

シリンダ 0 から始まるサブミラーを元のサブミラーにあるミラーに接続しようとする、シリンダ 0 から始まるサブミラーは使用できず、次のエラーメッセージが表示されます。

```
can't attach labeled submirror to an unlabeled mirror
```

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まるようにする。
- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まらないようにする。

---

注 - JumpStart インストールのデフォルトでは、swap パーティションがシリンダ 0 から始まっていて、ルートファイルシステム / はディスク上の他の場所から始まっています。システム管理者は通常、スライス 0 をシリンダ 0 から始めようとしています。デフォルトの JumpStart インストールにおいてスライス 0 上にあり、シリンダ 0 から始まってないルートパーティションを、別のディスクのシリンダ 0 から始まるスライス 0 にミラー化しようとする、ミラーを追加しようとする際に、エラーメッセージが出力されます。Solaris インストールプログラムのデフォルト動作の詳細については、27 ページの「スワップインストールについて」を参照してください。

---

---

## Solaris ボリュームマネージャに関するバグ情報

### metadetach コマンドでサブミラーを切断すると、ミラーの大きさが自動的に変更される (バグ ID: 4678627)

metadetach コマンドを使用してミラーからサブミラーを切断する場合、サブミラーを接続し直すことができなくなることがあります。この問題が発生するのは、サブミラーを切断した後にミラーの大きさが自動的に変更されるためです。

回避方法: metadetach コマンドを使用してサブミラーを切断する前に、切断したいサブミラーと同じサイズのサブミラーを接続します。

### ディスクが削除されて交換された場合、Solaris ボリュームマネージャの metareplace -e コマンドがソフトパーティションを有効にできない (バグ ID: 4645781)

システムからソフトパーティション化されたディスクを物理的に削除して新しいディスクに交換した場合、metareplace -e コマンドはソフトパーティションを有効にできません。ソフトパーティションを有効にするために metareplace コマンドを実行する前に metarecover コマンドを使用したかどうかにかかわらず、この問題は起こります。

回避方法: 新しいディスク上にソフトパーティションを作成し直してください。

---

注 - ソフトパーティションが、ミラーまたは RAID5 の一部である場合、-e オプションをつけずに metareplace コマンドを使用して、古いソフトパーティションと新しいソフトパーティションを交換してください。

```
metareplace dx mirror または RAID5 old_soft_partition new_soft_partition
```

---

## 障害の発生したホットスペアディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボリュームマネージャの `metahs -e` コマンドが銅ケーブルストレージボックスで失敗する (バグ ID: 4644106)

次の場合に、`metahs -e` コマンドが失敗することがあります。

1. ホットスペアデバイスに障害が発生した場合。たとえば、`metaverify` テストユーティリティを使用したときに、エラーが発生した場合など。
2. メタデバイスにエラーが発生して、Solaris ボリュームマネージャソフトウェアがホットスペアを起動しようとしたが、このホットスペアが「broken」とマークされている。
3. システムが停止して、障害が発生したホットスペアを含むディスクが同じ配置で新しいディスクに交換された。
4. システムが起動しても、Solaris ボリュームマネージャソフトウェアが新しいホットスペアを認識しない。
5. 新しいディスクのホットスペアを有効にするために、`metahs -e` コマンドが使用された。

次のメッセージが表示されます。

```
WARNING: md: d0: open error of hotspare (Unavailable)
```

Solaris ボリュームマネージャソフトウェアは、物理的に同じ場所に交換された新しいホットスペアディスクを認識しないため、この問題が起こります。Solaris ボリュームマネージャソフトウェアはすでにシステムに存在しないディスクのデバイス ID を表示し続けます。

---

注 - ディスクが交換されるとデバイス番号が変わる Photon などのストレージ格納装置では、この問題が発生するかどうかは判明していません。

---

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 次の手順に従い、Solaris ボリュームマネージャの状態データベースでホットスペアディスクのデバイス ID を更新する。
  1. スーパーユーザーになります。
  2. 次のコマンドを入力して、ホットスペアディスクのデバイス ID を更新します。

```
metadevadm -u logical-device-name
```
  3. 次のコマンドを入力して、新しいホットスペアディスクを利用できるようにします。

```
metareplace -e logical-device-name
```

- 次の手順に従い、システムのホットスペアとホットスペアプールを管理する。
  1. スーパーユーザーになります。
  2. 次のコマンドを入力して、ホットスペアスライス用のエントリを削除します。

```
metahs -d hsphot-spare-pool-number logical-device-name
```
  3. 次のコマンドを入力して、正しいデバイス ID を持つ、同じ場所にあるホットスペアスライス用の新しいエントリを作成します。

```
metahs -a hsphot-spare-pool-number logical-device-name
```

## 論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの `metadevadm` コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)

障害が発生したドライブは Solaris ボリュームマネージャソフトウェアで構成されたドライブに交換できません。交換するドライブは Solaris ボリュームマネージャソフトウェアにとって新しいドライブである必要があります。Photon 上のあるスロットから別のスロットにディスクを物理的に移動した場合、`metadevadm` コマンドが失敗することがあります。この問題が発生するのは、スライスの論理デバイス名がすでに存在しないのに、ディスクのデバイス ID がメタデバイス複製に存在しているためです。次のメッセージが表示されます。

```
Unnamed device detected. Please run 'devfsadm && metadevadm -r' to resolve.
```

---

注 - このとき、新しい場所にあるディスクにはアクセスできますが、スライスにアクセスするためには、古い論理デバイス名を使用する必要があります。

---

回避方法: ドライブを物理的に元のスロットに戻してください。

## Solaris ボリュームマネージャの `metarecover` コマンドが `metadb` 名前空間の更新に失敗する (バグ ID: 4645776)

システムからディスクを物理的に取り外して交換して、`metarecover -p -d` コマンドを使用して適切なソフトパーティションの特定の情報をディスクに書き込むと、オープンエラーが発生します。このコマンドはメタデバイスデータベースの名前空間を更新せず、ディスクデバイス識別情報の変更を反映しません。この状態になると、ディスクの一番上に構築された各ソフトパーティションでオープンエラーが発生し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Open Error
```

回避方法: `metarecover` コマンドを実行してソフトパーティションを回復するのではなく、新しいディスクにソフトパーティションを作成してください。

---

注 - ソフトパーティションがミラーまたは RAID5 の一部である場合、次の `metareplace` コマンドを `-e` オプションをつけずに使用して、古いソフトパーティションを新しいソフトパーティションに交換します。

```
metareplace dx mirror または RAID5 old_soft_partition new_soft_partition
```

---

---

## ネットワークに関するバグ情報

### ホールドオフ期間中、アイドル状態の Solaris PPP 4.0 デーモンが終了する (バグ ID: 4647938)

次の場合、Solaris PPP (ポイントツーポイントプロトコル) 4.0 デーモン (`pppd`) が予期せずに終了することがあります。

- `pppd` デーモンがアイドル状態である。
- `pppd` デーモンの `demand` オプションと `holdoff` オプションが有効になっている。
- ホールドオフ期間中にパケットが到着した。

`pppd` デーモンが予期せずに終了した場合、次のようなメッセージが適切なシステムログファイルに記録されます。

```
current date hostname pppd[PID]: [ID 702911 daemon.error] unable
to set IP to pass: Invalid argument
current date hostname pppd[PID]: [ID 702911 daemon.error] unable to
enable IPCP
```

`pppd` デーモンの `demand` オプションと `holdoff` オプションの詳細については、`pppd(1M)` のマニュアルページを参照してください。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- `pppd` デーモンがリンクを初期化し直そうとする前に待機する必要がない場合、`pppd` デーモンの `holdoff` オプションを使用しない。
- `holdoff` オプションの値を 0 に設定する。
- 次のような Bourne シェルスクリプトに似たループスクリプトから `pppd` デーモンを実行する。

```
#!/bin/sh
while :; do
```

```
/usr/bin/pppd cua/b lock idle 60 demand nodetach noauth \
38400 10.0.0.1:10.0.0.2 holdoff 20
done
```

## フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパケットが失われることがある (バグ ID: 4152864)

2 つの IP ノード間に複数の IP トンネルを設定し、`ip_strict_dst_multihoming` または他の IP フィルタを有効にした場合、パケットが失われることがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 2 つの IP ノード間に IP トンネルを 1 つだけ設定し、`-addif` オプションを指定した `ifconfig` コマンドによって、トンネルにアドレスを追加する。
- 2 つの IP ノード間のトンネルでは `ip_strict_dst_multihoming` を有効にしない。

---

## セキュリティに関するバグ情報

### CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474)

CDE セッションのロックを解除すると、キャッシュされている Kerberos Version 5 (krb5) の資格がすべて削除されることがあります。その結果、さまざまなシステムユーティリティにアクセスできなくなることがあります。この問題は次の場合に起こります。

- `/etc/pam.conf` ファイルにおいて、当該システム用の `dtssession` サービスがデフォルトで `krb5` モジュールを使用するように構成されている。
- CDE セッションをロックした後、そのセッションのロックを解除しようとした。

この問題が発生した場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
lock screen: PAM-KRB5 (auth): Error verifying TGT with host/host-name:
Permission denied in replay cache code
```

回避方法: 次の `pam_krb5 dtssession` のエントリを `/etc/pam.conf` ファイルに追加してください。

```
dtssession auth requisite pam_authtok_get.so.
```

```
dtssession auth required pam_unix_auth.so.1
```

上記エントリが /etc/pam.conf ファイルに存在すると、pam\_krb5 モジュールはデフォルトで実行されません。

## CDE の Removable Media 自動実行機能は Solaris 9 9/02 オペレーティング環境から削除されている (バグ ID: 4483353)

CDE デスクトップ環境の Removable Media 自動実行機能は、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境から一時的に削除されています。この機能が削除されているのは、セキュリティ上の潜在的な問題を軽減するためです。

CD-ROM または他の着脱式メディアボリュームの自動実行機能を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- 着脱式メディアの最上位のファイルシステムから volstart プログラムを実行する。
- CDE の外部からアクセスするために CD に含まれている手順を実行する。

---

注 - セキュリティ関連の注意事項とパッチの最新情報については、SunSolve<sup>SM</sup> Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) にアクセスして調べてください。セキュリティ関連のパッチは、ご購入先でなくてもすべて SunSolve サイトから入手できます。

---

## cron、at、および batch はロックされたアカウントにジョブをスケジュールできない (バグ ID: 4622431)

Solaris 9 9/02 オペレーティング環境において、ロックされたアカウントは期限切れのアカウントまたは存在しないアカウントと同様に処理されます。したがって、ロックされたアカウントに対して、cron、at、および batch ユーティリティでジョブをスケジュールすることはできません。

回避方法: ロックされたアカウントが cron、at、または batch ジョブを受け付けるようにするには、ロックされたアカウントのパスワードフィールド (\*LK\*) を NP (パスワードなしの意味) という文字列に置き換えます。



---

## ソフトウェアに関するその他のバグ情報

### Solaris 9 9/02 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114)

Solaris 9 9/02 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャを使用してさまざまな作業を実行しようとする場合、`vxddladm addjob` または `vxddladm addsupport` コーティリティがコアダンプすることがあります。

回避方法: 次の手順に従ってください。

1. スーパーユーザーになります。
2. `/var/ld/ld.config` ファイルと `/usr/bin/crle` コーティリティがシステムに存在することを確認します。
3. 次のコマンドを端末ウィンドウに入力します。

```
/usr/bin/cp /var/ld/ld.config /var/ld/ld.config.save
/usr/bin/crle -E LD_LIBRARY_PATH=/usr/lib
appropriate-vxddladm-command
/usr/bin/mv /var/ld/ld.config.save /var/ld/ld.config
```

---

## DOCUMENTATION CD に関する注意事項

### iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない

iPlanet™ Directory Server 5.1 Collection - Japanese において、「DocHome」というタイトルのリンクと異なるブック間のリンクが機能しません。これらのリンクを選択した場合、Not Found エラーがブラウザに表示されます。

回避方法: 当該システム上で iPlanet Directory Server 5.1 のドキュメント間を移動するには、<http://docs.sun.com> で iPlanet Directory Server 5.1 Collection (Solaris Edition) - Japanese ページに移動します。そこから表示したい文書へのリンクをクリックします。

## 他の文書パッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要

SUNWsdocs パッケージが削除されている場合、他の文書パッケージを削除しようとしても失敗します。この状況が発生するのは、SUNWsdocs が他のコレクションとともにインストールされ、ブラウザのエントリーポイントを提供しているためです。

回避方法: SUNWsdocs パッケージを削除している場合は、マニュアルメディアから SUNWsdocs パッケージをもう一度インストールし、そのあとで他のマニュアルパッケージを削除してください。

---

## DOCUMENTATION CD に関するバグ情報

### ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475)

Solaris 9 9/02 オペレーティング環境とそれ以外の UNIX ベースのシステムにおいて、次のヨーロッパロケールでは、Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD 1 of 2 の PDF 文書の表示ができません。

- de (ドイツ語)
- es (スペイン語)
- fr (フランス語)
- it (イタリア語)
- sv (スウェーデン語)

この問題が発生するのは、Adobe Acrobat Reader の制限のためです。この問題の詳細については、<http://www.adobe.com:80/support/techdocs/294de.htm> にある Adobe Technote サイトを参照してください。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- Solaris 9 9/02 オペレーティング環境とそれ以外の UNIX ベースのシステムでは、環境変数 LC\_ALL を C に設定する。たとえば、C シェルでは、次のコマンドを端末ウィンドウに入力する。

```
% env LC_ALL=C acread
```

- Adobe Acrobat Reader 5.0 またはそれ以降のバージョンにアップグレードする。

## Solaris 9 9/02 Documentation パッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 9/02 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961)

次の場合、いくつかの Solaris 9 9/02 文書コレクションが予期せずシステムから削除されます。

1. Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 と 2 of 2 を両方ともシステムにインストールした。
2. 1 の後、prodreg ユーティリティまたは Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用して、ある文書パッケージを削除した。

Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 と 2 of 2 には共通のコレクションが 3 つあります。このようなコレクションが含まれるパッケージを Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 または 2 of 2 のどちらかのインストールから削除すると、このパッケージは両方のインストールから削除されます。

次の表に、予期せず削除されることがあるパッケージの一覧を示します。

表 3-1 両方の Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD に含まれる Solaris 9 9/02 文書パッケージ

| HTML パッケージ名 | PDF パッケージ名 | コレクション名                                        |
|-------------|------------|------------------------------------------------|
| SUNWaadm    | SUNWpaadm  | Solaris 9 9/02 System Administrator Collection |
| SUNWdev     | SUNWpdev   | Solaris 9 Developer Collection                 |
| SUNWids     | SUNWpids   | iPlanet Directory Server 5.1 Collection        |

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- アンインストールプロセスによって上記文書パッケージが予期せず削除されたが、これらのパッケージをシステムに置いておきたい場合、これらのパッケージを Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 または 2 of 2 からインストールし直す。
- この問題を回避するには、prodreg ユーティリティを使用せず、pkgrm ユーティリティを使用して、削除したいパッケージをシステムから削除する。

---

## ローカライズに関する注意事項とバグ情報

### ja\_JP.eucJP ロケールに関する注意事項

Solaris 8 では、ja\_JP.eucJP ロケールは ja ロケールと同等のロケールとして定義されていましたが、Solaris 9 からは「UI-OSF 日本語環境実装規約 Version 1.1」を基準に定義されています。よって、ja ロケールは従来の Solaris の ja ロケールと同じ動作が必要な場合、ja\_JP.eucJP ロケールは他の UNIX ベンダーと同じ動作が必要な場合に使用するのが適しています。詳細は「日本語環境ユーザズガイド」を参照してください。

### en\_US.UTF-8 ロケールでは AltGraph-E を使用してもヨーロッパ言語の文字が生成されない (バグ ID: 4633549)

en\_US.UTF-8 ロケール環境では、AltGraph キーと E キーを同時に押すことによってヨーロッパ言語の文字を入力することはできません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- Compose キーを押して放し、次に C キーを押して放し、さらに = キーを押して放す (Compose+C+=)。

---

注 - キーボードに Compose キーがない場合は、Control キーを押したまま Shift キーと T キーを押してください (Ctrl+Shift+T)。

---

- Alt キーを押したまま 4 のキーを押す (Alt-4)。

### アラビア語のロケールでは Shift-U が予期しない動作をする (バグ ID: 4303879)

アラビア語のロケールで分音符号を生成するには、アラビア文字を入力してから Shift-U を入力してください。

## Secure シェルアプリケーションが完全に各国語対応されていない (バグ ID: 4680353)

Secure シェルアプリケーションは、一部のユーザーインターフェースまたはメッセージが英語で表示されます。これらは完全に翻訳することができない場合もあります。

---

## Netscape Communicator 4.78 (日本語版)に関するバグ情報

Netscape Communicator 4.78 (日本語版)に関する注意事項とバグ情報について説明します。

### [日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123)

Netscape Communicator 4.78 を ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールで使用する場合、ページ情報ダイアログ内の日本語の一部が文字化けしたり、ダイアログのタイトルが表示されないことがあります。ja ロケールで使用している場合は、この問題は起こりません。

### [日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー&ペーストできない (バグ ID: 4197428)

キーボードの Copy キー、Paste キー、編集メニューの「コピー」、「ペースト」を使用して、端末エミュレータやテキストエディタなどの CDE アプリケーションから Netscape Communicator に日本語文字列をコピー&ペーストできません。

回避方法: マウスの左ボタンでコピーしたい文字をハイライト表示し、マウスの中ボタン (2 ボタンマウスの場合は右ボタン) を使って、Netscape Communicator 上にペーストしてください。

---

注 - マウスボタンのマッピングを左利き用に設定している場合は、左ボタンと右ボタンの機能が逆になります。

---

## Netscape Communicator 4.78 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571)

Netscape Communicator 4.78 を最初に起動した際に、使用許諾契約書を表示するダイアログが表示されますが、契約書の内容が途中で切れています。

回避方法 :以下の場所にある license ファイルを直接参照してください。

```
/usr/dt/appconfig/netscape/lib/locale/<locale>/netscape/license
```

## Netscape 6.2.3 に関する注意事項

Solaris 版の Netscape 6.2.3 は、使用中のデスクトップのロケールに対応する言語環境が自動的に選択されて起動します。たとえば、ja ロケールでデスクトップを使用している場合、Netscape は常に日本語環境で起動します。したがって、Netscape 6.2.3 の「表示」メニューの「言語 / エリアを設定」メニューから言語を切り替えたり、「設定」ダイアログの「コンテンツパック」から言語またはエリアを切り替えたりしても、その操作は無効です。

また、「設定」ダイアログの「さらにダウンロード」および「表示」メニューの「追加ダウンロード」も機能しません。言語パッケージを追加したい場合は、30 ページの「Netscape 6.2.3 のローカライズパッケージは DVD または CD から自動的にインストールされない (バグ ID: 4709348)」の回避方法に書かれている手順に従って、必要なローカライズパッケージをインストールしてください。

---

## 英語以外のロケールに関する実行時のバグ情報

英語以外のロケールに関する注意事項およびバグ情報について説明します。

### ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314)

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールでソートを行うと、予期しない結果が発生します。

回避方法: フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、スウェーデン語の UTF-8 ロケールでソートを行う前に、LC\_COLLATE 変数をその言語の ISO8859-1 ロケールに設定してください。

```
echo $LC_COLLATE es_ES.UTF-8
setenv LC_COLLATE es_ES.IS08859-1
```

上記のように LC\_COLLATE 変数を設定後、ソートを行なってください。

---

## Sun ONE Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) の問題

### 設定の問題

インストール時、識別名を入力するときには UTF-8 文字セットエンコーディングを使用します。ほかのエンコーディングはサポートされていません。インストール操作では、データはローカル文字セットエンコーディングから UTF-8 文字セットエンコーディングに変換されません。データをインポートするために使用される LDIF ファイルも UTF-8 文字セットエンコーディングを使用する必要があります。インポート操作では、データはローカル文字セットエンコーディングから UTF-8 文字セットエンコーディングに変換されません。

### スキーマの問題

Sun™ Open Net Environment (Sun ONE) Directory Server (旧 iPlanet Directory Server) 5.1 が提供するスキーマは、RFC 2256 において groupOfNames オブジェクトクラスと groupOfUniqueNames オブジェクトクラスに指定されているものとは異なります。Sun ONE Directory Server 5.1 が提供するスキーマでは、member 属性タイプと uniquemember 属性タイプはオプションで選択します。RFC 2256 では、これらのタイプにはオブジェクトクラスごとに少なくとも 1 つの値が存在する必要があると指定されています。

aci 属性は操作属性です。明示的に要求しない限り、検索結果は返されません。

### レプリケーションの問題

現在、広域ネットワーク上のマルチマスターレプリケーションはサポートされません。

## サーバープラグインの問題

Sun™ ONE Directory Server 5.1 は UID 一意性検査 (Uniqueness) プラグインを提供します。デフォルトでは、このプラグインは起動されません。特定の属性について属性の一意性を確実にするには、属性ごとに属性の一意性検査 (Attribute Uniqueness) プラグインの新しいインスタンスを作成します。属性の一意性検査 (Attribute Uniqueness) プラグインの詳細については、<http://docs.sun.com> の『*iPlanet Directory Server 5.1 管理者ガイド*』を参照してください。

現在、参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインはデフォルトでオフです。衝突解決ループを回避するために、参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインは、マルチマスターレプリケーション環境でも 1 つのマスターレプリカだけで有効にする必要があります。連鎖要求を発行するサーバーで参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインを有効にする前に、パフォーマンス資源、時間、および完全性のニーズを解析します。完全性チェックはメモリー資源と CPU 資源を大量に消費する可能性があります。

## サービスのロールとクラスの問題

nsRoleDN 属性はロールを定義するのに使用します。この属性は、ユーザーのエントリにおけるロールメンバーシップを評価するには使用しないでください。ロールメンバーシップを評価するときには、nsrole 属性を調べます。

## インデックスの問題

複数のデータベースを持つ場合、VLV インデックスは正しく機能しません。

---

## Sun ONE Directory Server に関するバグ情報

### Console を使用してユーザーを無効にできない (バグ ID: 4521017)

Sun ONE Directory Server 5.1 Console を起動し、新しいユーザーまたはロールを「アクティブでない」として作成した場合、新たに作成したユーザーまたはロールがアクティブになります。Console を使用した場合、ユーザーとロールは「アクティブでない」として作成できません。



回避方法: ユーザーまたはロールを「アクティブでない」として作成するには、次の手順に従います。

1. 新しいユーザーまたはロールを作成します。
2. 新たに作成したユーザーまたはロールをダブルクリックするか、あるいは新たに作成したユーザーまたはロールを選択します。「オブジェクト」メニューから「プロパティ」項目をクリックします。
3. 「アカウント」タブをクリックします。
4. 「無効」ボタンをクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

新たに作成したユーザーまたはロールが無効になります。

## ルート接尾辞に空白文字が含まれるディレクトリは構成できない (バグ ID: 4526501)

Sun ONE Directory Server 5.1 構成時にユーザーが空白文字が含まれるベース DN を指定した場合 (たとえば、「**o=U.S. Government,C=US**」)、結果として DN は切り詰められます (たとえば、「**Government,C=US**」)。構成時に DN を指定するときには、空白文字を使用せずに指定する必要があります (たとえば、「**o=U.S.%20Government,C=US**」)。

回避方法: ベース DN エントリを修正するには、次の手順に従います。

1. Console の「サーバとアプリケーション」タブの左側にあるナビゲーション区画において、一番上のディレクトリエントリを選択します。
2. User ディレクトリサブツリーフィールドにおいて、接尾辞を編集します。
3. 「OK」をクリックします。

## サーバー間でパスワードポリシー情報の同期をとれない (バグ ID: 4527608)

マスター以外のディレクトリサーバーでパスワードポリシー情報を更新した場合、この情報はほかのすべてのサーバーに複製されません。これはアカウントロックアウトの原因にもなります。

回避方法: 各サーバーでパスワードポリシー情報を手動で管理します。

## ユーザーパスワードを変更した後もアカウントロックアウトが残る (バグ ID: 4527623)

アカウントロックアウトが有効である場合、ユーザーパスワードを変更しても、アカウントロックアウトは残ります。

回避方法: ロックアウト属性 `accountUnlockTime`、`passwordRetryCount`、および `retryCountResetTime` をリセットして、アカウントのロックを解除します。

## インストール直後の Console のバックアップが失敗する (バグ ID: 4531022)

Sun ONE Directory Server 5.1 をインストールして、コンソールを起動し、ディレクトリを LDIF ファイルで初期化し、サーバーをバックアップした場合、Console はバックアップが成功したと報告しますが、実際にはバックアップは失敗しています。

回避方法: データベースを初期化した後、Console から次の作業を行います。

1. サーバーを停止します。
2. サーバーを起動し直します。
3. バックアップを実行します。

## DN 属性を正規化するとき、サーバーが大文字と小文字を区別する構文を無視する (バグ ID: 4630941)

LDAP ネーミングサービスを使用して、大文字小文字の区別以外は同じである自動マウントパス名を複数作成することはできません。大文字と小文字の区別以外は同じ名前のエントリがすでに存在する場合、ネーミング属性が大文字と小文字を区別する構文で定義されるエントリは作成できません (ディレクトリサーバーが許可しません)。

---

注 - `/home/foo` と `/home/Foo` の両方のパスを作成することはできません。

---

たとえば、エントリ `attr=foo,dc=mycompany,dc=com` が存在する場合、エントリ `attr=Foo,dc=mycompany,dc=com` は作成できません (ディレクトリサーバーが許可しません)。この問題の副作用として、LDAP ネーミングサービスを使用する場合、自動マウントパス名は大文字と小文字の区別に関わらず一意である必要があります。

回避方法: ありません。

## エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、そのサーバーがクラッシュする (バグ ID: 4678334)

エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、そのサーバーがクラッシュします。

回避方法: 上記操作中にはサーバーを停止しないでください。

## レプリケーションが自己署名証明書を使用できない (バグ ID: 4679442)

ユーザーが証明書ベースの認証による SSL レプリケーションを構成しようとするとき、次のいずれかの場合、レプリケーションは機能しません。

- サプライヤの証明書が自己署名である場合
- サプライヤの証明書が SSL ハンドシェイク時にクライアントのロールを果たせず、SSL サーバー証明書としてのロールしか果たせない場合

回避方法: ありません。

---

## その他

### バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない

いくつかのフリーウェアのソフトウェアが Solaris SOFTWARE CD にバンドルされていますが、多くのものは国際化および各国語対応されていません。



## 第 4 章

---

# サポート中止に関する情報

---

この章では、製品のサポート中止情報について説明します。

---

## Solaris 9 でサポートを中止した製品

この節では、Solaris 9 オペレーティング環境に適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

### adb マップ修飾子とウォッチポイント構文

adb ユーティリティは、Solaris 9 オペレーティング環境のこのリリースにおいて、新しい mdb ユーティリティへのリンクとして実装されています。

mdb(1) のマニュアルページでは、adb との互換モードなど、新しいデバッグ機能について説明されています。この互換モードにおいても、adb と mdb の間には、次のような違いがあります。

- mdb では、一部のサブコマンドのテキスト出力形式が異なります。マクロファイルの形式は adb と同じ規則に従っていますが、他のサブコマンドの出力に依存するスクリプトは、変更しなければならない場合があります。
- ウォッチポイントの長さを指定する構文が、mdb と adb とで異なります。adb のウォッチポイントコマンド `:w`、`:a`、`:p` では、整数の長さをバイト単位で指定してコロンとコマンド文字の間に挿入することができます。mdb では、繰り返し回数として、数値を初期アドレスの後に指定する必要があります。
  - adb コマンドの場合  
`123:456w`
  - mdb コマンドの場合

123,456:w

- mdb では、/m、 /\*m、 ?m、 ?\*m 書式指示子はサポートされていないため認識されません。

## AnswerBook2 文書サーバー

AnswerBook2™ 文書サーバーは、このリリースには含まれていません。従来の AnswerBook2 文書サーバーは Solaris 9 オペレーティング環境で使用できます。Solaris のマニュアルは Solaris DOCUMENTATION CD によってオンライン形式でご利用いただけます。また、<http://docs.sun.com> で、Solaris の全マニュアルをいつでもご利用いただけます。

## aspppd ユーティリティ

aspppd ユーティリティは、このリリースではサポートがされません。Solaris 9 オペレーティング環境に含まれている Solaris PPP 4.0 のpppd (1M) を使用してください。

## ATOK8 日本語入力方式

ATOK8 日本語入力方式は、このリリースでサポートが中止されました。Solaris 9 オペレーティング環境に組み込まれている ATOK12 日本語入力方式によって、ATOK8 と同様の機能とともに拡張機能が得られます。

## crash ユーティリティ

crash ユーティリティは、このリリースではサポートされません。Solaris 9 オペレーティング環境では、crash ユーティリティに近い機能が mdb (1) ユーティリティで提供されます。mdb ユーティリティもシステムがクラッシュしたときのダンプファイルを調べます。crash ユーティリティのインタフェースは、Solaris オペレーティング環境の実装に関係のない細部の実装 (スロットなど) の周辺に構成されてきました。

crash から mdb への移行については、『Solaris モジューラデバugg』の「crash からの移行」で説明されています。

## Solaris ipcs コマンドのシステムクラッシュ時のダンプ用オプション

システムクラッシュ時のダンプに、コマンド行で -c オプションと -N オプションを指定して ipcs (1) コマンドを適用する機能は、このリリースではサポートされません。これと同等の機能は、mdb (1) ::ipcs デバuggコマンドで提供されます。

## cs00 日本語入力方式

cs00 日本語入力方式は、Solaris 9 オペレーティング環境でのサポートが中止されました。xci インタフェースなどの関連インタフェース、Japanese Feature Package (JFP) の libmle API、および mle コマンドも Solaris 9 オペレーティング環境ではサポートされません。

旧リリースから Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードすると、従来の公共ユーザー辞書 /var/mle/ja/cs00/cs00\_u.dic が削除されます。

Solaris 9 オペレーティング環境でサポートされる日本語入力方式は、ATOK12 と Wnn6 の 2 種類です。ATOK12 と Wnn6 の入力方式に関しては、『国際化対応言語環境の利用ガイド』を参照してください。

## アーリーアクセス (EA) ディレクトリ

Solaris 9 リリースでは、EA ディレクトリの名前は ExtraValue に変更されました。

## ESDI ドライブ用 Emulex MD21 ディスクコントローラ

ESDI ドライブ用の MD21 ディスクコントローラは、Solaris 9 オペレーティング環境でサポートが中止されました。

## enable\_mixed\_bcp チューニング可能パラメタ

enable\_mixed\_bcp は、このサポートが中止されました。Solaris 9 以前のオペレーティング環境では、/etc/system の変数 enable\_mixed\_bcp を 0 に設定すると、部分的に静的にリンクされた、SunOS 4.0 と互換性のある実行可能ファイルの動的なリンクを無効にすることができます。設定がない場合、システムは、これらの実行可能ファイルに対して動的リンクを使用します。Solaris 9 オペレーティング環境では動的リンクが常に使用され、enable\_mixed\_bcp チューニング可能パラメタがシステムから削除されました。この変更による、SunOS 4.0 と互換性のある実行可能ファイルに対する、バイナリ互換性への影響はありません。

## japanese ロケール

Solaris 1.x リリースからの移行のために ja (EUC) ロケールの別名として提供されてきた japanese ロケールは提供されなくなりました。ja または ja\_JP.eucJP ロケールを使用してください。ただし、BCP (JLE) アプリケーションは引き続きサポートされます。

## libjapanese.a

日本語専用ライブラリ libjapanese.a およびそれに関連する次のヘッダーファイルは、提供されなくなりました。

- /usr/include/jcode.h
- /usr/include/ibmjcode.h
- /usr/include/jctype.h
- /usr/include/ja/xctype.h
- /usr/include/wstring.h

libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムは、XPG4.2 などの標準関数を使用して書き換えることをお勧めします。

また、Solaris 7 および Solaris 8 で提供していた、libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムのソース互換性を保つための代替関数およびマクロのソースファイル (SUNwjlibj) も、提供されなくなりました。

## Java Software Developer's Kit (SDK) 1.2.2

Java™ SDK バージョン 1.2.2 は、Solaris 9 のリリースには組み込まれていません。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JDK および JRE の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

## JDK 1.1.8 および JRE 1.1.8

JDK version 1.1.8 および JRE version 1.1.8 は、このリリースでサポートが中止されました。その代わりに、ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition version 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JDK および JRE の新旧を含むすべてのバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

## OpenWindows 開発ツールキット

OpenWindows™ XView™ および OLIT ツールキットでの開発は、このリリースでサポートが中止されました。開発者は Motif ツールキットへの移行を検討してください。OpenWindows XView および OLIT ツールキットを使用して開発されたアプリケーションは、Solaris 9 オペレーティング環境でも実行できます。

## OpenWindows ユーザー環境

OpenWindows 環境は、このリリースでサポートが中止されました。共通デスクトップ環境 (CDE) が Solaris 9 オペレーティング環境のデフォルトのデスクトップ環境です。OpenWindows XView および OLIT ツールキットを使用するアプリケーションは、Solaris 9 オペレーティング環境の CDE でも実行できます。



## プライオリティページングおよび関連カーネル調整可能パラメタ(priority\_paging/cacheefree)

priority\_paging および cacheefree という調整可能なパラメタは、Solaris 9 リリースではサポートされません。これらのパラメタの代わりに、拡張ファイルシステムキャッシュアーキテクチャがプライオリティページングと同様のページングポリシーを実装します。これは常時、使用可能です。/etc/system ファイルにこれらのパラメタを設定しようとする、ブート時に次のような警告が出力されます。

```
sorry, variable 'priority_paging' is not defined in the 'kernel'
sorry, variable 'cacheefree' is not defined in the 'kernel'
```

Solaris 9 リリースに移行するか、または pkgadd で SUNWcsr パッケージを追加し、/etc/system ファイルに priority\_paging パラメタまたは cacheefree パラメタが含まれていた場合、次のように処理されます。

1. /etc/system ファイルに priority\_paging パラメタまたは cacheefree パラメタが設定されていると、次のメッセージが表示されます。

NOTE: /etc/system は、調整可能パラメタの参照が含まれていたため変更されました。  
変更されたファイルを確認してください。

2. /etc/system ファイルの、priority\_paging または cacheefree を設定する行の前に、コメントが挿入されます。たとえば、priority\_paging が 1 に設定されている場合、その行が以下の行に置き換えられます。

```
* NOTE: As of Solaris 9, priority paging is unnecessary and
* has been removed. Since references to priority paging-related tunables
* will now result in boot-time warnings, the assignment below has been
* commented out. For more details, see the Solaris 9 Release Notes, or
* the "Solaris Tunable Parameters Reference Manual".

* set priority_paging=1
```

## s5fs ファイルシステム

s5fs ファイルシステムは、このリリースでサポートが中止されました。s5fs ファイルシステムは、Interactive UNIX アプリケーションのインストールをサポートするためのものでした。しかし Solaris オペレーティング環境は、Interactive UNIX アプリケーションをサポートしていません。

## sendmail ユーティリティ機能

sendmail ユーティリティの一部は、このリリースにサポートされません。サポートが中止される機能は、標準機能に対して Sun が独自に修正を加えた部分です。たとえば、V1/Sun 構成ファイル用の特殊な構文や意味解釈、リモートモード機能、Auto Rebuild Aliases オプション、Sun 固有の 3 つの逆別名機能などがこれに当たります。

これらの機能および移行方法の詳細については、<http://www.sendmail.org/vendor/sun/solaris9.html> を参照してください。

## SUNWebnfs

SUNWebnfs パッケージは、Solaris オペレーティング環境には含まれません。

ライブラリと関連マニュアルについては、<http://www.sun.com/webnfs> からダウンロードできます。

## sun4d ベースのサーバー

sun4d アーキテクチャベースの以下のサーバーは、このリリースでサポートが中止されました。

- SPARCserver™ 1000
- SPARCcenter™ 2000 sun4d アーキテクチャに依存するハードウェアオプションは、このリリースでサポートが中止されました。

## SUNWrdm パッケージ

Solaris SOFTWARE CD に含まれており、Solaris オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報やリリース直前に明らかになった問題点が記載されていましたが、このパッケージはこのリリースでは提供されません。

SUNWrdm に記載されていた情報は、Solaris DOCUMENTATION CD に含まれている『ご使用にあたって』、印刷マニュアルの『ご使用にあたって』(インストールに関する情報のみ)、<http://docs.sun.com> に掲載されている『ご使用にあたって』に記載されていますので、これらを参照してください。

## sdtudc\_extract\_ps

sdtudc\_extract\_ps が廃止され、その機能は sdtudc\_extract に統合されました。

---

## 将来のリリースでサポートを中止する予定の製品

この節では、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースに適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

### Solaris 32 ビット Sun4U カーネル

Solaris 7、8、および9ソフトウェアの多くのインストールでは、デフォルトの64ビットカーネルを使って32ビットおよび64ビットのアプリケーションをサポートします。UltraSPARC システム上で32ビットのカーネルを使用するカスタマは、この注意事項をお読みください。

Solaris 7、8、および9オペレーティング環境では、UltraSPARC I および UltraSPARC II プロセッサをベースにしたすべてのシステムにおいて、32ビットカーネルと64ビットカーネルのどちらをブートするかを管理者が選択できます。UltraSPARC III®以降のシステムでは、64ビットカーネルだけがサポートされます。

Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでは、UltraSPARC I および UltraSPARC II システムについても、32ビットカーネルを利用できなくなる可能性があります。

この変更から影響を受けるのは、主として、サードパーティの32ビットカーネルモジュール(たとえば、ファイアウォール、カーネル常駐ドライバ、置換ファイルシステムなど)に依存しているシステムです。こうしたシステムは、これらのモジュールの64ビットバージョンを使用するようにアップデートしなければなりません。

この変更のもう1つの影響は、200MHz以下のクロック周波数のUltraSPARC I プロセッサを搭載したUltraSPARC システムが、将来のリリースではサポートされなくなる可能性があるという点です。

システムのカーネルタイプを識別するには、`isainfo(1)` コマンドを使用します。

```
% isainfo -kv
```

システムのプロセッサクロックレートを識別するには、`psrinfo(1M)` コマンドを使用します。

```
% psrinfo -v | grep MHz
```

## netstat の -k オプション

netstat の -k というサポートされていないオプション (実行中の OS インスタンス上のすべての名前付きカーネル統計情報について報告するオプション) は、将来のリリースで削除される可能性があります。代わりに、サポートされている kstat (1M) コマンド (同じ機能を提供している) を使用してください。kstat コマンドは、Solaris 8 オペレーティング環境で導入されたものです。

## SPARCengine Ultra AX

SPARCengine Ultra™ AXmp グラフィックスカードのサポートは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでは提供されなくなる可能性があります。Ultra AX 上の IGS CyberPro2010 など、サードパーティ製のグラフィックスカードについての関連サポートも、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでは提供されなくなる可能性があります。

## スタンドアロンのルーター検出

IPv4 ICMP ルーター発見プロトコルの /usr/sbin/in.rdisc 実装は、Solaris の将来のリリースではサポートされなくなる可能性があります。このプロトコルとほぼ同等のバージョンが、/usr/sbin/in.routed のコンポーネントとして実装されており、拡張された管理インタフェースをサポートしています。/usr/sbin/in.routed コンポーネントは、RIP (経路制御情報プロトコル、Routing Information Protocol) バージョン 2 の実装をサポートします。/usr/sbin/in.routed コンポーネントには、モバイル IP 通知をルーター発見メッセージと区別する機能もあります。

## AdminTool

swmtool を含む AdminTool (admintool) は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

## アジアの短縮 dtlogin 名

次にリストするアジアの短縮ロケール名は、将来のリリースでは dtlogin 言語リストに含まれない可能性があります。

- zh
- zh.GBK
- zh.UTF-8
- ko
- ko.UTF-8

- zh\_TW

Solaris 8、Solaris 9 および Solaris 9 9/02 リリースでは、下記を含む新しい ISO 標準ロケール名を提供しています。

- zh\_CN.EUC
- zh\_CN.GBK
- zh\_CN.UTF-8
- ko\_KR.EUC
- ko\_KR.UTF-8
- zh\_TW.EUC

## power.conf の Device Management エントリ

power.conf (4) の Device Management エントリは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境では、Automatic Device Power Management エントリによって同様の機能が得られます。

## フェデレーテッドネーミングサービス XFN のライブラリとコマンド

X/Open XFN 標準に基づくフェデレーテッドネーミングサービス (FNS) は、将来のリリースでサポートを中止する予定です。

## GMT zoneinfo タイムゾーン

/usr/share/lib/zoneinfo/GMT[+-]\* タイムゾーンは、将来のリリースでサポートが中止される予定です。これらのタイムゾーンのファイルは、/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリから削除されます。削除されたファイルの代わりに、対応する Etc/GMT[-+]\* ファイルを使用してください。詳細については、zoneinfo(4) および environ(5) を参照してください。

## JRE 1.2.2

Java™ runtime environment (JRE) のバージョン 1.2.2 は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JRE の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

## Kerberos バージョン 4 クライアント

Kerberos バージョン 4 クライアントは、将来のリリースで削除される予定です。これに伴い、以下において Kerberos バージョン 4 はサポートされなくなります。

- kinit(1)、kdestroy(1)、klist(1)、mount\_nfs(1M)、kerbd(1M) コマンド
- kerberos(3KRB) ライブラリ
- ONC RPC プログラミング API (kerberos\_rpc(3KRB))

## Korean CID フォント

Korean CID フォントは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris オペレーティング環境には、Korean CID フォントに代わるものとして Korean TrueType フォントが組み込まれているので、そちらを使用してください。

## LDAP クライアントライブラリ

LDAP (軽量ディレクトリアクセスプロトコル、Lightweight Directory Access Protocol) クライアントライブラリ libldap.so.3 は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。このライブラリの新しいバージョンである libldap.so.5 は、IETF (Internet Engineering Task Force) の ldap-c-api ドラフトの draft-ietf-ldapext-ldap-c-api-05.txt 版に準拠しています。

## NIS+

NIS+ は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境には、NIS+ から LDAP への移行ツールが用意されています。詳細は、<http://www.sun.com/directory/nisplus/transition.html> を参照してください。

## pam\_unix モジュール

pam\_unix(5) モジュールは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。pam\_authok\_check(5)、pam\_authok\_get(5)、pam\_authok\_store(5)、pam\_dhkeys(5)、pam\_passwd\_auth(5)、pam\_unix\_account(5)、pam\_unix\_auth(5) および pam\_unix\_session(5) が同様の機能を提供します。

## Perl バージョン 5.005\_03

将来 Perl バージョン 5.005\_03 は、サポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境では、Perl のデフォルトバージョンが前のバージョン (5.005\_03) とバイナリ互換でないバージョンに変更されました (ただし、現在はまだ互換可能です)。サイトで独自にインストールしたモジュールは、新しいバージョンに対

応させるために、再構築および再インストールする必要があります。バージョン 5.005\_03 を使用する必要があるスクリプトは、デフォルトバージョン (/bin/perl、/usr/bin/perl または /usr/perl5/bin/perl) の代わりに、バージョン 5.005\_03 のインタプリタ (/usr/perl5/5.005\_03/bin/perl) を明示的に使用するように変更してください。

## 電源管理入出力制御コマンド

次の電源管理入出力制御コマンド (ioctl<sub>s</sub>) は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- PM\_DISABLE\_AUTOPM
- PM\_REENABLE\_AUTOPM
- PM\_SET\_CUR\_PWR
- PM\_GET\_CUR\_PWR
- PM\_GET\_NORM\_PWR

Solaris 9/02 オペレーティング環境では、次の ioctl<sub>s</sub> が代わりにサポートされています。

- PM\_DIRECT\_PM
- PM\_RELEASE\_DIRECT\_PM
- PM\_GET\_CURRENT\_POWER
- PM\_SET\_CURRENT\_POWER
- PM\_GET\_FULL\_POWER

ioctl<sub>s</sub> の詳細については、ioctl(2) マニュアルページを参照してください。

## Solstice Enterprise Agents

Solstice Enterprise Agents™ は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

## SPC ドライバ

SPC ドライバは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

## sun4m ハードウェア

sun4m ハードウェアは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

## XIL

XIL は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。XIL を使用するアプリケーションを使用すると、次のような警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: XIL OBSOLESCENCE
 This application uses the Solaris XIL interface
 which has been declared obsolete and may not be
 present in version of Solaris beyond Solaris 9.
 Please notify your application supplier.
 The message can be suppressed by setting the environment variable
 "_XIL_SUPPRESS_OBSOLETE_MSG."
```

## xutops プリントフィルタ

xutops プリントフィルタは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 9/02 オペレーティング環境の mp (1) プリントフィルで同様の機能が提供されています。



## 第 5 章

---

# マニュアルに関する情報

---

この章では、ドキュメントについて知られている問題を説明します。

---

## マニュアルの訂正・補足と注意事項

### 『Solaris 9 パッケージリスト』

『Solaris 9 パッケージリスト』の「Solaris 9 オペレーティング環境のパッケージ」には、LDAP パッケージの SUNWlldap の記述が抜けています。SUNWlldap パッケージは Solaris 9 オペレーティング環境に含まれ、コア、エンドユーザー、開発者、全体ディストリビューション、および全体ディストリビューション+OEM のメタクラスタに含まれています。

### sysidcfg マニュアルページおよび『Solaris 9 インストールガイド』

sysidcfg(4) マニュアルページと、「Solaris 9 9/02 Release and Installation Collection」では、sysidcfg ファイルの default\_route キーワードの値として、IPv4 アドレスだけを使用するように指示しています。しかし、default\_route キーワードの値として NONE も使用できます。

### 『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』

Solaris CIM スキーマでは、次のクラスおよび属性に Deprecated 修飾子のタグが付いています。

- Solaris\_LogRecord クラス
- Solaris\_LogService クラス
- Solaris\_LogServiceSetting クラス
- Solaris\_IPProtocolEndpoint クラスの OptionsEnabled プロパティ

これらの推奨されないクラスおよび属性には、適切な代替クラスおよび属性を使用してください。適切な代替クラスおよび属性かどうかを判別するには、クラス記述修飾子を参照してください。

## 『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』の「クライアントプログラムの記述」

javax.com.sun.client API で RMI プロトコルを使用する WBEM クライアントを作成し、なおかつ Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているサーバーに接続する場合は、クライアントの CLASSPATH に /usr/sadm/lib/wbem/cimapi.jar ファイルを指定する必要があります。cimapi.jar ファイルには、Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているサーバーとの通信に必要な com.sun.wbem クラスが指定されています。

## [日本語環境のみ] man3X11、man3Xt の日本語翻訳マニュアルページが古い

一部の man3X11、man3Xt の日本語翻訳マニュアルページは、内容が最新ではありません。

回避方法: 日本語マニュアルページは参考とし、最新の情報は英語版マニュアルページを参照してください。(例: % env LANG=C man XtAddCallback)

---

## Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD に関する注意事項

### ナビゲーションファイルに関する注意事項

Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD には、各言語のコレクションへのリンクなどを集めたナビゲーション用の html ファイル群が用意されています。CD 上からは、これらのナビゲーション用ファイルを参照または使用することができます。

Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION CD をインストールした場合には、インストールされた各コレクションへのリンクを持つナビゲーション用の html ファイルが生成されます。生成されるファイル名は、/var/opt/sun\_docs/sundocs.html です。このファイルから Netscape などのブラウザにより各コレクションをたどることができます。

## [日本語環境のみ] Solaris 9 9/02 DOCUMENTATION 2 of 2 CD の booklist.html に 記載されているマニュアル名に誤りがある (バグ ID: 4733202)

ナビゲーションファイルから以下のコレクションへのリンクをクリックすると、表示されるマニュアルリストでマニュアル名の 1 つに誤りがあります。

コレクション:

- Solaris 9 9/02 System Administrator Collection - Japanese - HTML
- Solaris 9 9/02 System Administrator Collection - Japanese - PDF

誤ったマニュアル名:

- Solaris のシステム管理 (ネーミングとディレクトリサービス

以下のマニュアル名に読み替えてください。

正しいマニュアル名:

- Solaris のシステム管理 (ネーミングとディレクトリサービス: DNS、NIS、LDAP 編)



# Solaris 9 9/02 オペレーティング環境の パッチの一覧

---

この付録で示すパッチは、次のいずれかの方法で、すでに Solaris 9 9/02 オペレーティング環境に適用されています。

- SolStart

この方法で適用されたパッチは、インストールされたシステムの `/var/sadm/patch` ディレクトリにあります。

- Freshbits テクノロジ

この方法で適用されたパッチは、Solaris 9 9/02 オペレーティング環境が作成されたときに適用されたものです。そのため、`/var/sadm/patch` ディレクトリにはありません。

`showrev -p` コマンドを実行すると、インストールしたシステムに適用されているすべてのパッチの一覧が、その適用方法に関わらず表示されます。Solaris 9 9/02 オペレーティング環境には、既知の検査済みのパッチが含まれています。これらのパッチは Solaris 9 9/02 オペレーティング環境からバックアウトすることはできません。

---

注 – Solaris 9 9/02 オペレーティング環境には、Solaris アップデートリリースのインストールイメージに特有のタスクを実行するパッチが含まれています。これらのパッチはそれぞれの Solaris オペレーティング環境アップデートリリースに固有であるため、Solaris オペレーティング環境のほかのシステム、またはほかのリリースには適用されません。これらのパッチを Solaris オペレーティング環境のほかのシステムにダウンロードまたはインストールしようとはなりません。

---

---

## パッチの一覧

- 111711-01 – 32-bit Shared library patch for C++

■ **111712-01 – 64-Bit Shared library patch for C++**

4618537

■ **111722-01 – SunOS 5.9: Math Library (libm) patch**

4652341 4664522

■ **112233-01 – SunOS 5.9: Kernel Jumbo Patch**

4114317 4382913 4466085 4484338 4496935 4521521 4521525 4522402 4525533 4527648 4532512  
4618812 4619870 4623395 4627510 4629569 4633008 4633015 4636049 4637031 4638346 4638981  
4642754 4643857 4644123 4644731 4647361 4649851 4650210 4655634 4659588 4672677 4672730  
4677620 4682918 4686943 4691670 4693350 4693574 4702559 4707874 4712247 4718366 4719361

■ **112540-04 – SunOS 5.9: Expert3D IFB Graphics Patch**

4652111 4645735 4650501 4316968 4515693 4494062 4497748 4649811 4652804 4654897 4659006  
4663042 4624812 4663732 4664981 4651919

■ **112565-02 – SunOS 5.9: XVR-1000 GFB Graphics Patch**

4636225 4640002 4629777 4638125 4635704 4643375 4587680 4636721 4639155 4643767 4637546  
4636748 4641167 4641177 4636866 4636788 4636846 4637796

■ **112601-02 – SunOS 5.9: PGX32 Graphics**

4502887 4633850

■ **112617-01 – CDE 1.5: rpc.cmsd patch**

4641721

■ **112621-01 – SunOS 5.9: Creator 9 FFB Graphics Patch**

4649465

■ **112622-03 – SunOS 5.9: M64 Graphics Patch**

4531901 4632595 4668719 4672129 4682681

■ **112771-02 – Motif 1.2.7 and 2.1.1: Runtime library patch for Solaris 9**

4512887 4663311 4664492

■ **112783-01 – X11 6.6.1: xterm patch**

4636452 4657934

■ **112785-04 – X11 6.6.1: Xsun patch**

4649617 4651949 4642632 4644622 4531892 4692623

■ **112787-01 – X11 6.6.1: twm patch**

4659947

■ **112804-01 – CDE 1.5: sdtname patch**

4666081

■ **112805-01 – CDE 1.5: Help volume patch**

4666089

- 4666089
  - 112806-01 – CDE 1.5: sdtaudiocontrol patch
- 4667119 4648724
  - 112807-02 – CDE 1.5: dtlogin patch
- 4668701
  - 112808-01 – OpenWindows 3.6.3: Tooltalk patch
- 4663628
  - 112809-01 – CDE:1.5 Media Player (sdtjmplay) patch
- 4658962 4651090 4648346 4647988 4645885 4637950 4629291 4675241 4640855 4686107 4686121  
4686126 4704372 4696480 4703803 4699088 4698533 4687821 4678583 4704413 4703839 4707612  
4702980
  - 112817-03 – SunOS 5.9: Sun GigaSwift Ethernet 1.0 driver patch
- 4616944
  - 112833-01 – SunOS 5.9: patch /usr/ccs/bin/ar
- 4628764
  - 112834-01 – SunOS 5.9: patch scsi
- 4638788
  - 112835-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/clinfo
- 4660516
  - 112836-01 – SunOS 5.9: patch scsa2usb
- 4621740
  - 112837-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/inet/in.dhcpd
- 4407705
  - 112838-01 – SunOS 5.9: patch /platform/sun4u/kernel/misc/sparcv9/pcicfg.e
- 4647410 4647927
  - 112839-01 – SunOS 5.9: patch libthread.so.1
- 4652995
  - 112840-01 – SunOS 5.9: patch platform/SUNW,Sun-Fire-15000/kernel/drv/sparcv9/axq
- 4652995 4659588 4664749
  - 112841-03 – SunOS 5.9: drmach patch
- 4647983
  - 112854-01 – SunOS 5.9: icmp should be QNEXTLESS
- 112868-02 – SunOS 5.9: ON Localization message patch

4658681 4685336

■ **112874-04 – SunOS 5.9: patch libc**

4318178 4444569 4503048 4661997 4683320 4704190

■ **112875-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/netsvc/rwall/rpc.rwalld**

4664537

■ **112902-03 – SunOS 5.9: kernel/drv/ip Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4488694 4502640 4592876 4639079 4644731 4645471 4647361  
4648388 4649557 4658216 4673676 4682913 4712511

■ **112903-01 – SunOS 5.9: tun Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4592876 4648388

■ **112904-01 – SunOS 5.9: tcp Patch**

4645471

■ **112905-02 – SunOS 5.9: ippctl Patch**

4644731 4647361 4712511

■ **112906-01 – SunOS 5.9: ipgpc Patch**

4644731 4647361

■ **112907-01 – SunOS 5.9: libgss Patch**

4197937 4220042 4642879

■ **112908-02 – SunOS 5.9: gl\_kmech\_krb5 Patch**

4197937 4220042 4642879 4657596 4690212

■ **112911-01 – SunOS 5.9: ifconfig Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4488694 4592876 4648388

■ **112912-01 – SunOS 5.9: libinetcfg Patch**

4396697 4417647 4425786 4479794 4592876 4648388

■ **112913-01 – SunOS 5.9: fruadm Patch**

4505850

■ **112914-02 – SunOS 5.9: in.routed Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434  
4635766 4637330 4637788 4648299 4701276

■ **112915-01 – SunOS 5.9: snoop Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4396697 4417647 4425786 4475921 4479794 4532805  
4532808 4532860 4559001 4587434 4592876 4635766 4637330 4637788 4648299 4648388

■ **112916-01 – SunOS 5.9: rtquery Patch**

1148813 1240645 4075054 4327168 4341344 4475921 4532805 4532808 4532860 4559001 4587434  
4635766 4637330 4637788 4648299





- 4471199 4631449
- 112958-01 – SunOS 5.9: patch pci.so
- 4657365
- 112959-01 – SunOS 5.9: patch libfru
- 4643255 4661738
- 112960-01 – SunOS 5.9: patch libsldap ldap\_cachemgr
- 4630226 4645604 4648140 4648146
- 112961-01 – SunOS 5.9: patch platform/SUNW,Ultra-Enterprise/kernel/drv/sysctrl
- 4638234
- 112962-01 – SunOS 5.9: patch libthread\_db.so.1
- 4667173
- 112964-01 – SunOS 5.9: ksh using control Z under ksh does not work well with vi
- 4223444
- 112965-01 – SunOS 5.9: patch /kernel/drv/sparcv9/eri
- 4467555 4467562 4479894 4496082 4518457 4528597 4546894 4599774 4637678
- 112966-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/vold
- 4638163
- 112967-02 – SunOS 5.9: patch /kernel/drv/nca
- 4629396 4631903 4650210
- 112968-01 – SunOS 5.9: patch /usr/bin/renice
- 4502191
- 112969-02 – SunOS 5.9: vold slows down the boot process
- 4592827 4715363
- 112970-02 – SunOS 5.9: patch libresolv.so.2
- 4646349 4708913
- 112971-01 – SunOS 5.9: patch kernel/fs/cachefs
- 4493561 4615194
- 112972-01 – SunOS 5.9: patch /usr/lib/libssagent.so.1 /usr/lib/libssasmp.so.1
- 4395096 4633918 4643121
- 112975-01 – SunOS 5.9: patch /kernel/sys/kaio
- 4682197
- 112987-01 – SunOS 5.9: patch /platform/sun4u/kernel/tod/sparcv9/todsg
- 4618950

- 4243984 4424387 4558909 4665297 4670382 4670414 4670468
■ 112998-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/syslogd
- 4114317 4699257
■ 113024-02 – SunOS 5.9: wrsm Driver Patch
- 4640559
■ 113025-01 – SunOS 5.9: libpsvcpolicy\_psr.so.1 Patch
- 4615383
■ 113026-01 – SunOS 5.9: /kernel/drv/md Patch
- 4687199
■ 113027-01 – SunOS 5.9: libfrureg.so.1 Patch
- 4665847
■ 113029-01 – SunOS 5.9: libaio.so.1 and abi\_libaio.so.1 Patch
- 4659950
■ 113030-01 – SunOS 5.9: /kernel/sys/doorfs Patch
- 4635504
■ 113031-01 – SunOS 5.9: /usr/bin/edit Patch
- 4503048
■ 113032-01 – SunOS 5.9: /usr/sbin/init Patch
- 4657311
■ 113033-01 – SunOS 5.9: patch /kernel/drv/isp and /kernel/drv/sparcv9/isp
- 4695070
■ 113038-01 – SunOS 5.9: JFP manpages patch
- 4614828 4668356 4668371
■ 113061-01 – SunOS 5.9: UTF-8 locale UMLE patch
- 4696138
■ 113071-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/acctadm
- 4670999
■ 113072-01 – SunOS 5.9: patch /usr/sbin/format
- 4709299
■ 113077-01 – SunOS 5.9: patch su driver
- 4704023
■ 113125-01 – SunOS 5.9: missing libc\_psr.so.1 symlink
- 4704023
■ 113145-02 – SunOS 5.9: Naturetech /platform links are not exist

4707235

- **113146-01 – Apache Security Patch**

4705227

- **113218-01 – SunOS 5.9: patch pcipsy**

4114317

- **113219-01 – SunOS 5.9: patch /platform/SUNW,Ultra-Enterprise/kernel/drv/fhc**

4114317

- **113220-01 – SunOS 5.9: patch /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/upa64s**

4114317

- **113313-01 – SunOS 5.9: etExceptionusr/sbin/install.d/pfinstall Patch**

4724529